情報局編輯

週報

七月九日號

特輯

建設進む新支那の概貌

第二四八號
昭和十一年十月一日[illegible]種郵便物認可
昭和十六年七月九日[illegible]行
（每週一回水曜日發行）

五錢

新支那の前途は断じて平坦ではない　しかし道遠きが故に迷ふが如きは志の足らざるの致すところ――われ〳〵の前途にあるものは光明である

（一六・六・二四近衛首相ラジオ放送より）

特輯　建設進む　新支那の概貌　（第二四八號　七月九日）

蒙疆……三
蒙古聯合自治政府の近況（三）　鐵道開發の現況（四）　農業と牧畜（　）　通貨（七）　文化工作（八）　交通と通信（一〇）
北支……一一
華北政務委員會の近況（一一）　鑛物開發（一三）　工業（一六）　農業（一九）　交通と通信（二三）　貿易（二七）　通貨（二九）　文化工作（三一）
中支……三三
國民政府の現狀（三三）　蠶業（三七）　農業（三八）　交通と通信（三九）　鑛産開發（四五）　貿易（四六）　通貨（四七）　文化工作（四九）
南支……五〇
廣東（五〇）　厦門（五一）　汕頭（五三）　海南島（五四）
日本人の進出狀況……五七
支那事變綜合戰果（陸軍）　大本營陸軍報道部……六〇

七月七日――世界動亂の最中にわれ〳〵は支那事變四周年を迎へた。われ〳〵は謹んで大陸に散華した英靈の冥福と、傷つき病む諸勇士の快癒の日の早からんことを心から祈るものである。

これらの尊い犧牲によつて、今、新らしい支那は着々と建設され、力強く發展してゐる。新らしい支那の建設と發展とは、即ち新らしい日本の、否、新東亞の建設であり發展である。もとより、建設への道は坦々たる大道ではない。それは苦難の道である。

しかし、われ〳〵は苦難に充ちた新らしい支那建設の中に、聖戰の意義をはつきりと再認識し、不動の覺悟をもつて、その貫徹に邁進しなければならない。

今度、興亞院との協力の下に、本特輯號を編輯し、新らしい建設の支那を紹介する所以である。

露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

新支那の前途は断じて平坦ではない しかし道遠きが故に迷ふが如きは志の足らざるの致すところ——われ〱の前途にあるものは光明である

（一六・六・二四近衛首相ラジオ放送より）

特輯 建設進む新支那の概貌

（第二四八號 七月九日）

蒙疆……三
蒙古聯合自治政府の近況(三) 鑛産開發の現況(四) 農業 牧畜(六) 通貨(七) 文化工作(八) 交通と通信(一〇)

北支……一一
華北政務委員會の近況(一一) 鑛物開發(一三) 工業(一六) 農業(一九) 交通と通信(二三) 貿易(二七) 通貨(二九) 文化工作(三一)

中支……三三
國民政府の現狀(三三) 鑛業(三七) 農業(三八) 交通と通信(三九) 資源開發(四五) 貿易(四六) 通貨(四七) 文化工作(四九)

南支……五〇
廣東(五〇) 厦門(五二) 汕頭(五三) 海南島(五四)

日本人の進出狀況……五七

支那事變綜合戰果（陸軍） 大本營陸軍報道部…六〇

七月七日——世界動亂の最中にわれ〱は支那事變四周年を迎へた。われ〱は謹んで大陸に散華した英靈の冥福と、傷つき病む諸勇士の快癒の日の早からんことを心から祈るものである。

これらの尊い犧牲によつて、今、新らしい支那は着々と建設され、力強く發展してゐる。新らしい支那の建設と發展とは、卽ち新らしい日本の、否、新東亞の建設であり發展である。もとより、建設への道は坦々たる大道ではない。それは苦難の道である。

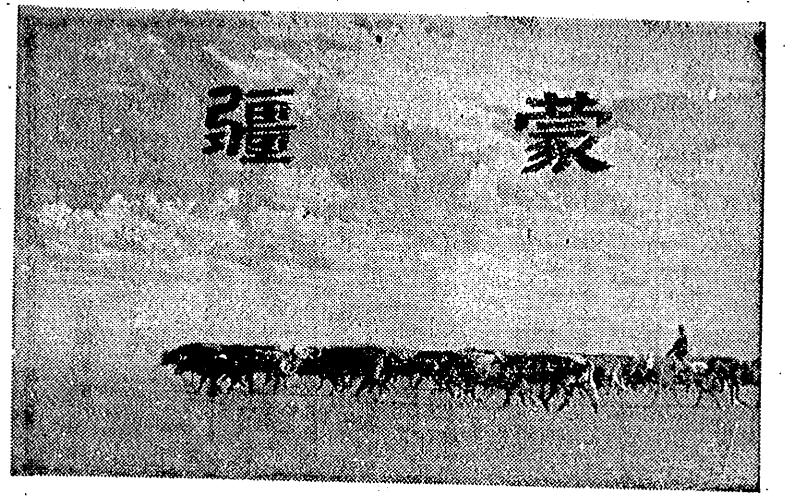
しかし、われ〱は苦難に充ちた新らしい支那建設の中に、聖戰の意義をはつきりと再認識し、不動の覺悟をもつて、その貫徹に邁進しなければならない。

今度、興亞院との協力の下に、本特輯號を編輯し、新らしい建設の支那を紹介する所以である。

露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

蒙古聯合自治政府の近況



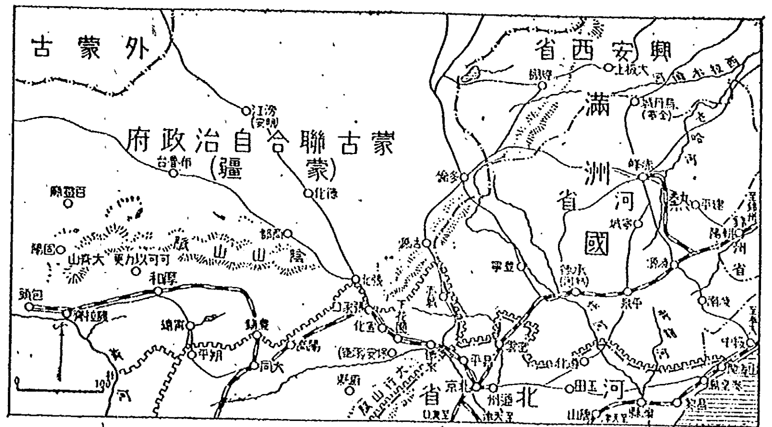
蒙古聯合自治政府は二つの特殊な意義をもつてゐる。一つは蒙古民族の獨立自治であり、一つは防共である。舊國民政府の壓迫を受けた蒙古民族の中に、德王を中心とする民族自治の運動が起り、一度は自治政權の樹立を見たが、舊南京政府による壓迫分裂政策のために失敗に終り、遂に武力によつて目的を達せんとして昭和十一年秋に綏遠問題が起つた。蒙古人の居住區域は察哈爾北部の錫林郭勒盟、綏遠北部の烏蘭察布盟、綏遠南部の伊克昭盟が主なものだが、民國以來、京綏鐵道の敷設と相俟つて、沿線に住む漢人は漸く多くなり、土地の開墾とともに、牧畜を業とする蒙古人は追はれて北方に去り、今日では主として陰山山脈の北にあり、蒙古人の生活は根本から脅かされて來たので、こゝに蒙古人のための牧場擁護を主として蒙古人の自治運動が起つたのであるが、蒙古聯合自治政府の成立によつて、南部に居住する漢人との間に民族的共存ができた。他の一つは蒙疆の地理的位置から見て、防共上重要な地位にあることである。この二つは蒙疆を北支那とは更に異るものにし、北支那よりも一層進んだ特殊性、獨立性を持たせることになつたのである。

事變の勃發とともに皇軍が舊察哈爾省に進入するや、その南部十縣の漢人居住地に察南自治政府が生れ、皇軍の大同入城とともに、山西省の長城北部にある十三縣を劃して晋北自治政府が成立し、これと從來からの蒙古自治政府の三者を聯合する蒙疆聯合委員會が生れたが、情勢の進展とともに、防共特殊地帶としての使命を達成し、東亞新秩序の建設に參與すべく、聯合から更に一步を進め、單一政權に統合され、昭和十四年九月一日、蒙古聯合自治政府が成立した。上述のやうな關係から、その施政綱領の中にも、「族を大同協和し人民の總意を旨とし大いに經綸を行ふ、共産主義の害毒から諸族を解放し世界防共の强化に資す、盟を友邦と結び同志と相契り、東亞新秩序の建設に參與す」とある。

政府の組織としては、主席の下に政務院長があり、その下に總務、民政、治安、司法、財政、産業、交通の各部を置き、地方政廳としては察南、晋北政廳、巴彥搭拉盟、察哈爾盟、錫林郭勒盟、烏蘭察布盟、伊克昭盟の各公署を設けた。

ところが、世界情勢の急激な變化に伴つて、戰時體制に即應する强力な行政機關の確立を期するため、本年六月一日を期し、行政機構に劃期的な大改革を斷行した。改革の要點は、從來の七部を廢し、一廳(總務)二部(內政、經濟)四委員會(興蒙、回敎、總力、司法)二局(交通總局、審計局)制としたことである。かくて主席德王の下に、新たに李守信將軍が副主席となつた。

今回の改革要旨は、蒙疆の國際的に特殊重要な位置に鑑み、行政機構の强力簡單化を計つて時局に即應するとともに、民族的な特殊狀態を考へたもので、蒙疆の民族的な構成要素が、漢人が大部分で蒙古人が一部分である關係から、蒙古人と回敎徒の地位を確立し、その生活を安全にし、民族協調の實を擧げるため、特に興蒙委員會、回敎委員會を設け、蒙古民族に關する行政をこゝに集中し、漢民族居住地の行政機構としては內政部、經濟部を設け、その長は主として漢人を用ひ、民族による政



治の特殊性を尊重することになつた。

次ぎに蒙古聯合自治政府の近況について見ると、民政においては上述のやうに、漢民族の二政廳と蒙古族の五盟公署がある。五盟の中にも若干の漢人が居住し、二市二十縣三十六旗を含んでゐる。蒙疆の總人口は約五百四十万人であるが、大部分は漢人で、蒙古人は約三十万人、回教族約十万人、日本人約三万五千人、他は漢人で主として山西、河北、山東人である。從つて民族問題は極めて微妙な關係をもつてゐる。

蒙疆は人口が稀薄で總面積五〇六、八〇〇平方キロ、即ち我が本州、四國、九州と朝鮮を含めた廣さの所に東京市よりも少い五百四十万人が住んでゐる。從つて産業開發に當つても勞働力が不足するから、北支方面から年に十數万の勞働者を入蒙させる必要があり、勞働力の需給調整のために勞働統制法が生れ、勞働統制委員會が設置されたが、更に勞働問題の徹底的な圓滑を圖るために蒙疆勞工協會が設立された。

鑛産開發はどう進んでゐるか

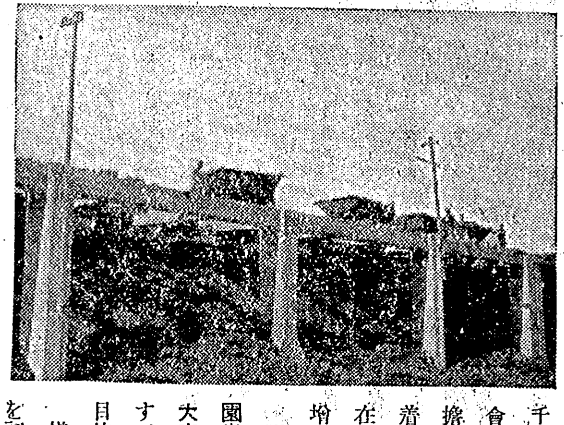
蒙疆が、特殊地域として認識され、わが國防の分擔を要請されてから、同地域の政治的、經濟的進展は目ざまし

いものがある。殊に鑛業部面においては、その豊富な鐵、石炭の開發に全力を注ぎ、既に開發四ケ年計畫を終つて新らしい飛躍に移らんとしてゐる。

蒙疆の鑛産資源といへば、第一に大同の石炭、龍烟の鐵が擧げられる。

大同は北京の西方にあつて、京綏線で北京まで五百六十八キロある。炭田は大同平野の西縁を縱走する口泉山脈から以西の高原地帶を占め、延長は北東―南西約百十キロ、幅は北西―南東平均十七キロ、面積約一千八百七十平方キロ（約十八万町歩）に亘り、埋藏量百二十億瓩の大炭田である。炭質は大體に高度瀝青炭であつて、工業用炭、家庭用炭として極めて良好である。下部含炭層の石炭は强粘結性をもち製鐵に適してゐる。

この炭礦は古く大正七年頃から採掘されてゐたが、昭和十二年十二月に蒙古聯合自治政府の前身である蒙疆聯合委員會の專營となり、更に昭和十五年一月以來、蒙疆特殊法人の大同炭礦株式會社（資本金四千万圓）によつて開發されてゐる。同會社は蒙疆政權の建設計畫の一翼を分擔して、銳意復興と增産に努力し、着着と所期の目的を達成してゐる。現在、從業勞働者は五千人を越え、更に增員の計畫が進められてゐる。

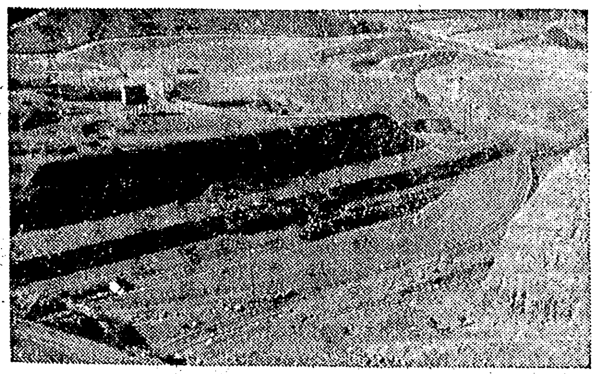

（大同炭礦）

附近の大炭田としては、宣化縣下花園炭礦（埋藏量一千七百万瓩）、包頭附近大青山炭礦（埋藏量三千万瓩）があり、すべて土法採掘によつて、地場消費を目的として經營されてゐる。

鐵は埋藏量一億瓩を越える龍烟鐵鑛を初めとして、白雲鄂博、百靈廟、武川、薩拉齊に産する。

龍烟鐵鑛は宣化、龍關、赤城、懷來、涿鹿の五縣に亘

る廣大な地域を占め、良質な赤鐵鑛を埋藏してをり、この開發は、昭和十四年七月設立された龍烟鐵鑛株式會社（蒙疆法人資本金二千万圓）が當つてゐる。現在稼行中のものは烟筒山・龐家堡の二鑛區で、蒙疆政權の建設計畫に呼應して重要な役割を果してゐる。



（龍烟・鐵鑛）

石景山製鐵所の擴充が考慮されてゐることを思ふ時、大同、龍烟に對する期待は大きい。なほ、蒙疆地域には、鐵、石炭の他にも、鹽、曹達、石綿、雲母、黒鉛等の多くの鑛産に惠まれてゐることを附記しなければならない。

農業と牧畜

蒙疆の主要産業は牧畜と農業であるが、社會的な、また自然的な條件に制約されてゐるために原始的であり、生産も不安定を免れない。しかし、蒙疆新政權の誕生とその成長に伴つて、經濟建設は着々と進められ、農業・牧畜も次第に改良進化の途を辿つてゐる。蒙疆の農業は乾地農業でわが國の農業と性質を異にするために、農事の改良と指導の前提として特に基礎的な調査研究が必要だが、これも漸く根柢を固めるやうになつた。

北支の食糧問題がいろ／＼論じられるやうになるに從つて、蒙疆農業の重要性はその度を加へて來たが、住民の福利増進、飼料の確保、北支への供給増加を目標とする高粱、粟、稗、大麥、燕麥、小麥、玉蜀黍等の農作物増産計畫は、土地改良等による耕地面積の擴大、品種の改良、栽培法の改善等によつて達成を期してゐる。

また、蒙疆居住の邦人食用米に應ずるため、水稻増産計畫が樹てられたほか、果樹、蔬菜、麻等の増産が自給確立、輸出増進を目的として奬勵されてゐる。なほ、蒙疆は極めて樹木、林野に乏しいが、治水、資材の兩觀點からする造林三十ケ年計畫がその第一歩を踏み出した。

これらの農林改良指導の中樞機關として中央農林試驗場が昭和十五年一月に蒙古聯合自治政府の下に張家口に設立された。試驗場は三科に分かれ、農産科は各種作物の試驗調査、病虫害・肥料・土壤等の調査研究を分掌し、林産科は造林の試驗調査、樹苗育成等を行ひ、勸導科は種苗、樹苗の配付等を目的としてゐる。創設以來日なほ淺く設備も十分ではないが、今後の活躍は注目すべきものがある。

蒙疆の畜産は緬羊・馬・牛・豚・駱駝等であるが、特に羊毛は東亞共榮圏内には他に資源が乏しく、重要な意義をもつてゐる。蒙疆新政權の成立發展につれて、畜産開發のための諸官制も次第に整備し、家畜防疫處、畜産試驗場、種畜牧場等が開設され、畜産に關する各種の試驗研究を行ひ、畜産改良の指針を授けると共に優良品種の増殖普及に努めてゐる。特に昭和十三年一月、厚和市に設立された家畜防疫處は防疫班を各地に派遣したり、獸疫に關する研究を行ひ、また技術員の養成に當る等多大の貢獻をしてゐる。

その他、種緬羊場の設置、緬羊の疾病防止、種牡緬羊の配布、羊毛蒐荷の統制、緬羊團體の設置等の諸對策によつて羊毛増産に邁進してゐる。既にコリデール種の人工授精の實驗に成功する等、蒙疆畜産資源の開發は今後ます／＼期待すべきものがある。

通貨

蒙疆銀行が昭和十二年十二月一日に蒙疆の中央銀行として業務を開始してから既に三ケ年半、その間能く政府の財政經濟政策と經濟界の實情に即應し、資金の統制、爲替の管理、購買力の吸收等に極力意を用ひ、外貨獲得、地場資本の育成、通貨價値の維持に努め、今や名實ともに蒙疆の金融中樞機關としての機能を完全に果し得るや

うになつた。支那全土が戰火に包まれ混亂の淵に沈んでゐる中から僅か三年半の間に今日の飛躍的な通貨建設の成果を收めたことは正に奇蹟ともいふべきである。

敗殘匪賊の遊擊戰術の中に民衆の生活を護り、資源の開發に邁進し、防共思想を確立し、新支那の精神を昂揚して明朗蒙疆を築き上げた經濟工作に當り、蒙銀券の果した功績こそ偉大なものである。蒙古聯合自治政府は蒙疆銀行發行の**蒙銀券**に對し法貨として强制通用力を與へ、また蒙銀券は保證準備の規定の下に發行されてゐる。

蒙銀券の發行高は當初の引繼高九百餘万圓に始まり、昭和十四年末の六千七万九千餘圓に伸び、更に昭和十五年末の九千三百一万五千餘圓に躍進した。その發行高がこのやうに著增したのは、主に農產物買付資金の需要增大に基づくものであり、從つて通貨の增發は何等の懸念なく、特に當局はその放出に際しては細心の注意を拂ひ、經濟界の動向と物資流動の實情を睨み合せて、極力實需に卽應した金融の疏通を圖つてをり、從つて常に資金の平衡を保ち、撤布資金の回收もまた十全を期し得られて健實な足取りを見せてゐるのである。しかも本年度に入つてからは順調な收縮狀況を示してゐる。卽ち農產物買付資金の一部還流に基づく一般貸附金の減少、政府の健全財政方針に基づく本年度新豫算による資金撤布の減少、

蒙疆における 文化工作

現在、蒙古聯合自治政府によつて教育、宗教、醫療、厚生のすべての文化機關は統合され、一元的に運用されてゐる。

教育については從來の排日教育を清算し、一時閉鎖されてゐた學校を復活したが、目下小學校の開校したもの一、七一五校、生徒八五、五八二名である。中等學校は現在十五校で生徒數は二、一五五名である。その他多數の私塾、簡易小學校等があるが、これらの統制については研究中である。

高等教育は自治政府の官吏養成機關である蒙疆學院(在張家口)を除いてはまだ設置されてゐない。また學術研究機關としては蒙古文化研究所、蒙疆教育會、蒙疆偕拓文化會などがある。

衞生醫療については、現在「中央衞生防

一般產業經濟の好調による租稅收入の增加に基づく政府金の激增竝びに貯蓄思想の普及徹底による一般預金の增

(毛皮の山を運ぶ——張家口)

加等を主要な原因として、去る四月二十日現在の發行高六千九百二十七万六千餘圓は昨年末に較べて二割五分五厘方の大幅の收縮である。

金融界の健全な推移は、この蒙銀券の發行狀況によつて十分に窺ひ得られるが、更に最近における預金の增加と放出資金の還流が相當に顯著となつた事實によつても明らかである。蒙疆銀行における昨年末の預金總額は七千六百七十五万五千餘

疫研究所」の設置を計畫中であるが、なにぶん醫師の分布が稀薄であり、養成所(現在二ヶ所)で急速に養成し、醫療、診療所を各地に新設する必要がある。けれども、昨年十一月に官立厚和醫院が新設され、主要都市には近代的な設備をもつ官立醫療機關が强化された。日本人側の醫療施設は主として**善鄰協會**によつて行はれてをり、現在六ヶ所に診療所をもつてゐる。

宗教は、蒙、漢、回の三民族をもつため、喇嘛教では青年訓練所、喇嘛醫養成所、佛教では日華佛教會、道教では道教會、回教では西北回教會の成立を見た。

日本文化の理解にとつて日本語普及の大切なことはいふまでもない。各學校における日本語學校のほかに、日語學校がある。また昨年末には蒙古留學生後援會が成立し、毎年日本に百人の留學生を送る計畫さへある。

圓、貸出總額は一億六千七百八十八万七千餘圓であつたが、本年一月以降最近に至る間に預金は一千百餘万圓を增し、反對に貸出は一千二百餘万圓を減じてゐる。蒙銀券の今後も亦政府の健全財政と購買力の積極的吸收及び資金統制の合理的强化策とによつてますます鞏固な發券基礎の上に强く伸びて行くことであらう。

蒙疆における 交通と通信

【鐵道】 疆内を大體東西に貫く京包線は八達嶺を越えて京津方面に通ずる疆内交通の大動脈である。蒙古聯合自治政府の所有ではあるが、廣い意味での華北交通を一元化する技術的・經濟的要請に基づいて、華北交通會社の經營に委託されてゐる。更に大同からは南方山西省方面に向つて同蒲線が分岐してゐる。大同の大運炭鐵道が塘沽に向つて建設の途上にあることは北支の項で述べる通りである。

【自動車】 鐵道の發達は低く、また、人煙稀薄な疆内に鐵道を敷設するのは必ずしも得策ではないので、これを補足するために自動車の利用が着目されてゐる。政府では自動車事業の重要性を認め、特殊法令に基づいた統制會社を設立して、疆内の自動車事業を獨占させてゐる。即ち、昭和十五年五月に**蒙疆汽車公司**（汽車とは支那で自動車のことである）が設立された。資本金六百万圓（大部分は華北交通の出資）、營業路線は昨年一月現在で四十一線、四、一九二キロである。路線は長大で内蒙の草原を越えて二日行程、三日行程に及ぶものがある。要するに交通はあまり發達せず、いまだに馬や駱駝が重要な交通機關となつてゐる。

【航空】 中華航空の北京・包頭線その他がある。

【通信】 郵政は事變直後の昭和十二年十二月に郵電總局を設けて管理してゐる。電氣通信は地域柄あまり發達してはゐなかつたが、わが國との特殊關係から積極的な助長方針がとられ、昭和十三年三月には日蒙合辦による蒙疆特殊法人の**蒙疆電氣通信設備株式會社**（資本金一千二百万圓）が創立され、電氣通信の設備を行ひ、その運用は郵電總局が行つてゐる。

北支

華北政務委員會の近況

昭和十五年三月南京に新國民政府が成立するや、維新政府は解體して國民政府に合流し、北京にあつた臨時政府もまた國民政府の統一下に入つたが、その特殊の地位から見て臨時政府の名を改めて、**華北政務委員會**が新たに生れたのであつた。六月に入つて王揖唐氏が代つて委員長となつたが、司法部がなくなつた位で、内部の組織には大した變化はなく、人員にも多少の異動を見たのみであつた。また、新民會も八月に入つて王克敏氏に代り王揖唐氏が會長に就任した。（カットの寫眞は北京大學農學院）

そこで、少し華北政務委員會の性質について述べてみよう。北京政府が倒れ、南京に舊國民政府が出來てからも、北方派は隱然たる一種の勢力をなし、中央の勢力圏外にあつた。その後、蔣介石の中央化が次第に進んで來て、昭和十年頃には中央の勢力は北方に及んで來たが、なほ山西に閻錫山あり、山東に韓復榘あり、河北、察哈爾には冀察政權を設け、中央が正式にこれを承認し、高度自治を與へて來たし、冀東政權に至つては全く中央の支配外にあつた。由來、北方には

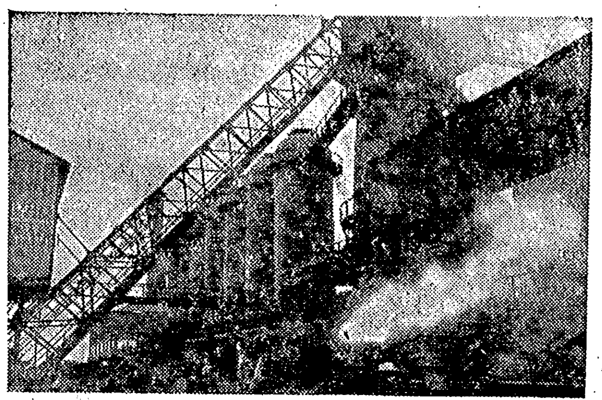
「**北方人の地方**」なる思想があり、南方と異る一つの空氣があるので、蔣介石の力を以てしても、その特殊情勢を認めざるを得なかつた。更に**北方の特殊性**としては、外交、經濟の兩面がある。外交的には從來日本と密接な關係にあり、北支には日本の經濟的利害が濃厚で、貿易の大部分も日本との間に行はれ、國防上からも密接不離のものがあるから、こゝに特殊の性質が附せられるのである。

北支の政客は北方派と稱し、國民黨とは別個のものがあり、從來、親日系として日本と親しい。更に北支と中支とは氣候・風土・民情・產物を異にし特殊性をもつてゐる。かうした關係から、南京に統一正式政府が生れて、すべて既存の政權が解消合一しても、北支のこの特殊性に鑑み、地方の自治性は保存されてゐるわけである。

華北政務委員會が成立してから漸く一ケ年餘りであるが、臨時政府の施政の跡を繼いだだけに、政務も次第に緖に就き、新委員長王揖唐氏は昔からの親日派であり、昨年秋には我が國を訪問して親善を温め、日支の合作に資するところが少くなかつた。また蒙疆との間にも、昨年十一月に**北支・蒙疆經濟協定**が調印され、双方の經濟關係が密接になつた。金融方面では久しく解決しなかつた天津租界内の現銀問題が解決し、また聯銀劵の流通を頑固に阻止してゐた天津英租界當局も、聯銀劵の流通を承認せざるを得なくなつた。敎育については、小學校における排日敎育を廢すると共に、事變によつて就學の道を失つた學生のために高等敎育の復興に努め、北京大學がまづ復活した。

治安の確立には大いに力を注ぎ、縣制の復活と共に警察機構を改善し、河北、山東、山西における各級法院の整備が行はれた。更に北支は共產軍遊擊戰の中心地だけに、これに對する清鄉の方法に力を注いでゐる。治安と直接關係があるのは民衆生活の安全であるが、これに對しては臨時政府成立の當初から都市と農村における失業救濟に力を注ぎ、北支における食糧問題については、その不足を補ふため蒙疆の雜穀に仰ぐことに努め、ま

た、中支方面の小麥を移入する等、各種の手段を盡して、人民生活の安全を計つてゐる。更に交通の整備に努め、京漢線と津浦線を結ぶ自動車道路を完成し、また、產業の開發に向つても大いに努力を拂ひ、徐々にではあるが健實な北支建設の足取りを示し、前途に光明を與へてゐる。



（太原鐵廠）

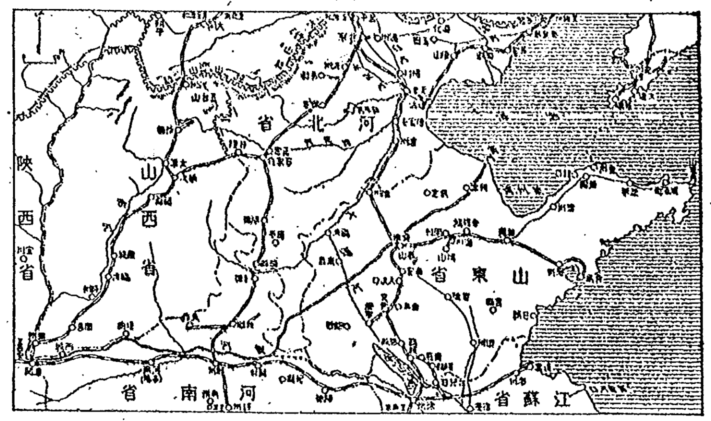
鑛物開發の現況

殆んど無盡藏の石炭と、貴重な鐵、その他の重工業資源を包藏する北支の重要性は今更說くまでもないが、これらの開發には鐵、石炭、タングステンに重點をおく方針の下に、さきに北支那開發の重任を帶びて設立された北支開發會社が、銳意これに當つてゐるが、時局の重大性は、同會社の事業に著るしく拍車をかけ、開發の實績は着々と擧がつてゐる。

石炭

北支は鐵、石炭等の重工業資源、及び金、タングステン、螢石、礬土頁岩等の多種類の鑛物資源を埋藏してゐるが、特に**石炭**は各省に廣く分布し、品質もまた多種に亘り、製鐵に燃料に極めて廣く利用し得られることは大東亞建設の前途に一大光明を與へるものである。

もとより鑛產資源が豐富であるからといつて、直ちにそのまゝ建設に役立つものではなく、交通・運輸・勞働力等のいろ／＼の條件が具備して初めて可能になることはいふまでもない。この點からすれば、河北、山東の資源が比較的に惠まれた條件の下にあるのに對し、山西のそ



れは、将來の交通の完備に伴つべきであらう。

山西省の石炭は早くから着目されてをり、各國人によつて調査されたが、大體、埋藏量は一千億瓲を超えるといはれる。炭質も無煙炭、瀝青炭等で、この地方に三百万瓲の鐵を埋藏することと相俟つて注目を惹いてゐる。北支において鐵と石炭とが近接して産出されることは、現在問題となつてゐる銑鋼一貫作業の遂行に適してゐるのである。**山西省太原製鐵廠**、**陽泉製鐵所**、北京郊外の**石景山製鐵所**など、すべてこの條件に適してゐて、東亜共榮圏完成のために擔ふ役割は大きいのである。

河北、山東兩省が炭礦に惠まれてゐることは前に述べたとほりであるが、事變後、**井陘炭礦株式會社**が新たに誕生し、博山、淄川炭礦を含む山東鑛業、開灤炭礦と並んで、コークス用石炭の重要供給源となつてゐるほか最近では、山西、磁縣、中興、大紋口、焦作、柳泉の各炭礦と北支開發會社との間に組合を結成して開發することになつた。

コークスはいふまでもなく製鐵に缺くことのできないもので、銑鐵一瓲の製造に對しコークス一瓲が必要であるが、北支に多量のコークス炭を埋藏することは、北支の重要性を裏書きするものである。

前述のやうに、井陘炭礦が設立されたことは、北支開

發事業の急速な進展を示すと共に、また、日支經濟合作の基本方針が着々と具體化してゐることの一例でもある。同炭礦は、石家莊、太原を繋ぐ石太線に沿ひ、京漢線で北京、天津、塘沽に通ずる地點で、その間四百九十キロ、最近に開通した石德線で青島へも非常に近くなつた。良質の粘結性有煙炭を産し、陽泉製鐵所、石景山製鐵所にコークスを供給するばかりでなく、附近各都市に燃料炭を、更には遠く日本への輸出の任をも果してゐるのである。

對日關係において重要な役割を演ずるものに、山東省の**山東鑛業**、**中興炭礦**がある。前者は膠濟線に沿ひ、後者は徐州の東北方嶧縣にあり、津浦、隴海兩線に沿ひ、搬出に惠まれてゐるので、事變後逸早く復興に着手した結果、着々と實効を擧げ、昨年度には百%以上の成績を擧げてゐる。

炭礦の開發が、他の經濟建設と同樣に、或ひはそれ以上に、大きな困難と障碍とをもつものであることはいふまでもないが、現在、北支各炭礦がすべての困難を乘り越えて勝利の道を驀進し續けてゐることは、それ自體が既に日本の發展性を如實に示してゐるといふべきであらう。

鐵と金

鐵は、山東省の金嶺鎭、山西省一帶、江蘇省の銅山縣利國驛に産出する。金嶺鎭は魯大公司の手によつて開發され、山西のものは土法採掘の域を出ない。

金は冀東の長城一帶、山東半島の北部に産し、この開發には**北支産金會社**（昭和十五年四月設立、資本金二百万圓）が當つてゐる。これらの金産地一帶は、最も困難の多い場所であるが、周到な計畫の下に事業を開始し、良好な實績を擧げてゐる。

その他

アルミニウムの原料として礬土頁岩も、北支の重要な資源となつてゐる。礬土は北京から山海關に至る一帶の冀東地區、開灤鑛區、秦皇島を據點とする石門寨鑛區、

博山、淄川一帶の山東鑛區に出るが、開發には華北礬土股份有限公司（資本金五百万圓、昭和十四年十二月設立）が當つてゐて、既に相當の量を出してゐる。

その他、山東省蓬萊縣、掖縣の螢石、冀東地區の重石等、重工業資源の開發が行はれてゐる。

北支の工業

重慶政權が西南奥地に立てこもつて僅かに餘命をつないでゐるのに引き換へ、わが占領地域における北支の經濟建設は一方肅正工作の輝かしい戰果と相俟つて、あらゆる困難を克服し、着々と建設の軌道を走つてゐることは心強いかぎりである。暴戾な支那軍の放火爆破によつて一夜にして灰燼に歸した青島の紡績工場も今は殆んど復舊したし、兵火による被害こそなかつたが、一時は事變前の半にまで生産の減退を見たともいはれる北支第一の工業都市天津も、その近代的工業の大部分は日本の資本と技術との提携によつて、事變前よりも更に一段と華々しい發展を示してゐる。

勿論、世界情勢の極りない變轉は北支の經濟建設を平穩のうちにおかなかつた。昨年十月の日獨伊三國同盟の締結は東亞自給經濟體制の強化を招來することになり、從つて北支における經濟建設は重要國防資源の開發に更に重點を注ぐことになつた。

そこで、工業部門としては、まづ資源開發の原動力である電力を始めとして、製鐵、製鹽等について以下、その建設の現況を見よう。

〔電　力〕

去る昭和十四年十一月、北支開發の子會社として**華北電業株式會社**（資本金一億圓）が設立され、北支における電氣事業の復興と開發を圖ると共に、これを一元的に統制し、豐富低廉な電氣を供給し、治安民生の向上、産業の興隆をはかることになつた。

同社は既に昨年二月から業務を開始し、産業用の大規模な發送電、配電及び北京、天津、冀東地區の發電、送電、配電を經營するほか、山西、河北、河南における從來

興中公司が依託經營してゐた多くの電燈廠を殆んどその傘下に收めた。なほ、既に着手した石景山發電所を始め、本年度の新設工事として歸德、運城、陽泉の發電所新設等、電力の增強に邁進してゐるが、更に施設資材の節約と合理化をはかるために、送電連絡の整備と、これに關聯して從來まち／＼であつた北支電氣の周波、電壓を一元化する等その業績は着々と進んでゐる。

また、從來の北支電氣事業の缺點は火力偏重であつたが、この缺陷を補ふため、水力發電の計畫が樹てられ灤河の水力發電は目下基礎的調査を行つてをり、北支における電氣事業が火水併用によつて一大飛躍をするのも遠くないものと期待される。

なほ、北支における電氣事業は前記の華北電業のほか、青島に**膠澳電氣株式會社**（資本金八百万圓）、濟南に**濟魯電業株式會社**（資本金四百万圓）、芝罘に**芝罘電業株式會社**（資本金二百万圓）等があり、いづれも北支開發の子會社として各地方の電氣事業の整備に當つてゐる。

〔製　鐵〕

北支産業五ケ年計畫に基づく鐵鑛石の增産と共に、鐵鋼についても增産が遂行されてゐる。卽ち、北京郊外の**石景山製鐵所**は昭和十三年十一月、石太線の中央にある**陽泉製鐵所**は十四年六月、山西の中心地太原にある閻錫山の創設にかゝる**太原製鐵所**は十四年十一月に、それぞれ作業を開始し、相當な成績をあげてゐる。また太原製鐵所はかねて準備中の新銑の增産設備が完成し、昨年十一月に火入れを行ひ、北支の銑鐵增産を一段と強化した。將來は、前記の三製鐵所を更に擴充するほか、太原製鐵所は壓延その他一貫作業の設備をもつてをり、本年上半期中には銑鋼一貫生産を始める豫定である。

〔製鹽と曹達〕

近時、日本における工業鹽に對する需要の增大と歐洲動亂による遠海鹽の輸入杜絶のため、近海鹽への期待が著るしく增大した結果、北支においては昨年來、鹽の增産計畫を立て、日滿支の食料及び工業用鹽の自給自足と

いふ綜合的見地から鹽の開發に邁進してゐる。

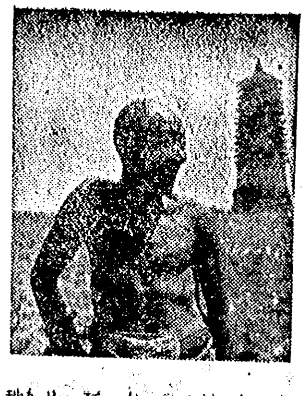
北支における鹽の產地は長蘆鹽と山東鹽である。長蘆鹽は從來主として興中公司鹽業部が經營して來たが、去る昭和十四年八月、北支開發の子會社として華北鹽業株式會社(資本金二千五百万圓)が設立され、興中公司に代つて開發に當つてをり、山東鹽は昭和十二年二月設立された山東鹽業株式會社が開發に當つてゐる。

長蘆鹽とは渤海灣一帶に產する天日製鹽をいふので、この地方は天日製鹽に最も必要な蒸發量が大きなことと日本近海隨一といはれ、地勢、土質ともに鹽田には最適の條件を備へてゐる。さて、重要國防資源である鹽の急速な開發といふ重大使命を帶びて誕生した華北鹽業は、北支地方民の生業の更生を主眼として、まづ漢沽、新河、漢沽、鄧沽等の約一万町步の既設華人鹽田の改良と約四千町步の荒廢華人鹽田の復舊に力を注いだ結果、この部分は殆んど完成した。一方、同社は直營鹽田として太沽に五千町步、大清河に六千町步の新規鹽田の開發計畫を立て、その第一期計畫は既に完成、第二期計畫も、本年度中には完成の豫定で、新設鹽田からの產鹽も間近かであり、既に對日輸出量においては相當の好成績をあげてをり、增產計畫は極めて堅實な足どりを示してゐる。

なほ、長蘆鹽は用途の關係上、良質な工業用鹽を得るため、昭和十四年一月、漢沽官坨に隣接して含有鹽化曹達量九〇%以上にのぼる原鹽洗滌加工場を建設し、年產十万噸に及んでゐる。そのほか、從來、興中公司が經營して來た永利化學工業公司曹達工場と久大精鹽工場運營の委囑を受け、管理工場として操業してゐる。前者は曹達灰と苛性曹達を、後者は食料用鹽を生產し、それぞれ相當な成績をあげてゐる。

山東鹽といふのは、黄海から勃海灣に亘る山東半島一帶の海岸に散在する七鹽場から產するもので、同區は長蘆鹽と共に支那六大海鹽場の一つである。現在、山東鹽業が開發に當つてゐるのは、膠州灣內とその附近の鹽田で、こゝでも地方民の更生を主眼として、既設華人鹽田と永裕鹽田の合計五千町步の積極的增產に努力し、既に相當の成績を收め、更に新規鹽田の開發にも着手した。

北支の農業



(北支郊外の農民)

いま膨漠たる北支平原には、耕地の半ばを占める冬小麥が黄金のみのりをおさめ、棉もすく〳〵と伸びて秋の豐かな收穫を思はせる。これまで北支の經濟開發は一方に作戰を行ひながら進展したので、幾多の困難に逢着せざるを得なかつたが、特に自然的な要素に左右されることの多い農業部面においては、事變の戰禍から恢復しない中に水害や旱害を受けたことは不幸なことであつた。殊に一昨年の水害は北支未曾有とさへ言はれたが、それでもよくこれを克服して、建設の步は着々と進められた。その第一は流亡窮迫の北支農民に温い救濟の手を差延べて農村を復興し、全住民の八割を占めるこの農民達を、物心兩面から東亞新秩序の建設に協力させることであつた。

水準の低い農業生產と社會經濟的に低い地位に疲弊困憊してゐた農民の更生が完全に成就したと言へないにしても、今や第一段階の應急策はほゞその任務を終り、これに代つて、これまでに綿密な調査と研究の成つた小麥や棉花や羊毛の增產計畫が、歐洲戰爭の進展、日獨伊三國同盟の成立に伴ふ時局の重大性に押し上げられて華々しい脚光を浴びることになつた。

北支民衆の主要食糧は都市とか鐵路沿線の上流階級では麵粉(小麥粉)であり、農村や下流階級では粟、高粱、玉蜀黍等の雜穀である。もと〳〵北支は食糧の自給にはことかゝぬ筈であるが、生產技術がおくれ、農民の力も足らず、內亂や災害に惱まされてゐたために、生產だけでは需要を充し得ず、年々巨額の麵粉を濠洲・カナダ・日本中支・から輸移入してゐた狀態である。北支經濟の進展のためには、この事態は何としても改善されねばならぬし、その重大性は最近の國際狀勢の波動によつて著るしく增して來た。そこで、小麥增產の大計畫を始めとし、粟、高粱、玉蜀黍等の雜穀の增產を確保するために着々と施設が進められてゐる。なほ米についても極力その增產を圖り、現在では日本に依存してゐる在支邦人食糧米も、やがては現地で自給することも不可能ではない。

次ぎに棉花である。北支は棉作の好適地であり、事變前五百万ピクルの生產高

を有してゐたが、價格や品質の點から日本には餘り輸入されてゐなかつた。しかし、事變後日本の事態は一變し、圓域に入つた北支から棉花の補給を仰がねばならぬ情勢となり、戰禍によつて減退してゐる生産を復舊して、更に昭和二十五年までに一千万ピクルに増産する計畫が樹てられてゐる。北支棉には中國棉（在來棉）と米棉（陸地棉）があり、前者は特殊用には重視されるが、紡績用としての米棉の品質改良は特に重要で、ストーンヴィル（斯字棉）種の増産が考慮されてをり、また棉作の増加が小麥等の増産を阻害しないやうに巧妙に睨み合はせてゐる。

（棉花の採集）

では、かうした**増産計畫**はどのやうに進められてゐるであらうか。

第一に華北農事試驗場の活動がある。これは華北産業科學研究所が實質的經營に當り、北京西直門外の本場は名實ともに正に東洋一の設備を誇り、石門（石家莊）、軍糧城、濟南、青島の四ケ所に支場をもち、棉花、小麥、米穀等の主要農作物の品種改良、原々種圃・原種圃の經營、農事技術員の養成を中心として、その他畜産、造林等に至るまで、北支農業改善のために眞摯な努力を續けてゐる。

第二に華北棉産改進會の事業がある。これは事變前から棉花栽培の指導獎勵を行つてゐた河北棉産改進會を接收して、一昨年に二月創立されたもので、山東、山西、河南各省に分會をもち、自營採種圃、委託採種圃の經營、優良種子の配給、棉花合作社の指導、鑿井による棉田水利等、棉花増産の中心となつて活動してゐる。その他原棉の獲得配給機關である北支棉花協會、紡績同業會等も一歩前進して棉花増産、品種改良に積極的に協力してゐる。

なほ、小麥は在支日華各製粉會社をメンバーとする華北小麥協會が、北支小麥の増産と品質改良に協力してゐる。

第三には合作社である。合作社は日本の産業組合に當るもので、新民會は新民運動の母胎として農村合作社を再建し、民衆の宣撫と、物資交易の仲介機關として農村復興のために働いてゐたが、合作社本來の任務は、春耕資金の融通など協同組合的な經濟機關である。この傾向は漸次強くなつて來てをり、新民會に勸農科も新設されて生産指導に乗り出した。合作社の組織は郷村合作社を單位とし、縣聯合會があり、最近合作社中央會も結成の運びとなつた。なほ、新民會合作社と平行して、華北棉産改進會系の棉花合作社があり、春耕資金の融通、繰綿施設、共同販賣を行ひ、棉花増産に貢獻してゐる。

第四に**華北交通株式會社**による鐵路愛護村運動がある。この運動は鐵道沿線農民の福利増進によつてその協力を得、鐵道を保護するもので、農業改善の効果もまた見るべきものがあり、例へば、昨年度に棉産改進會と協力して行つた鑿井は約三千本、本年度は一万六千餘本を實施する豫定で、棉花、小麥、粟、高粱等の各作物に灌漑することになつてゐる。

第五に増産計畫の一翼をなすものとして**土地改良計畫**がある。北支の耕地は利用し盡されて飽和點に達してゐると言はれてゐるが、なほ荒蕪地、アルカリ性土壤が未墾地として殘されてゐるので、これに對しては優秀な科學的技術によつて、本格的な土地改良を行ふために、本年三月、**華北墾業股份有限公司**（資本金千八百万圓）が設立された。

最後に北支農業の根幹をなす**治水利水事業**がある。降れば洪水、降らねば旱魃、從來はこれが恰も北支農業の附物であり、過剰人口の自然的調節作用のやうに云はれ、無力な農民達は大自然の偉力の前に飜弄されて來たが、この水の問題の解決は、明朗北支建設のために日支兩國に負はされた大使命である。即ち、黄河や白河水系の上流地域における造林（水源の涵養）、貯水池の築造、平野部における堤防の修築、河底の浚渫、放水路の完成によつて水害旱害を防いで生産の安定を計り、併せて水運、電力開發の副産物さへ得られる。勿論、この治水・利水事業は巨額の經費と長い年月とを要するが、日本の優秀な技術と北支農村の豐富な勞力を以てすれば、さほどの難事業ではない。部分的には着手されたものも多く、既に完成を見たものもある。

東亞の羊毛工業は從來、その原料の大部分を濠洲、南阿、南米に依存してゐたが、昨年十一月には華北羊毛改進會の成立を見、飼料問題も考慮し、一頭當り産毛量を倍加し、現在荒廢してゐる北京萬壽山附近の西山牧場を緬羊育成所に當て、山東と冀東に緬羊管理所を新設して、羊毛の改良に努めてゐる。

交通・通信

治安工作の觸手として、また、經濟建設の基礎工事として、否、作戰行動そのものの補助的手段として交通の整備は眞先に着手さるべきであり、また實際に着手され、極めて効果的に實現されたのである。それは實に硝烟の中で着手され、作戰行動と形影相伴つて急速に推進された。

四年前の今月七日、蘆溝橋畔に日支の衝突が勃發し、郎坊、南苑等の戰鬪を經て、京津地方が我が軍の手に掌握され、翌八月には早くも滿鐵の手で北支事務局が開設され、わが占領地域における鐵道の復舊運營が始つた。その後、內地から多數の人員が派遣されてこれを助け、皇軍の勢威が擴大されるに從つて、その活動分野も全北支に及ぶに至つた。

そして約一年半を經過したが、事變が漸く長期建設戰の段階に入ると共に、交通事業の經營形態にも新たな恒久的形態が考慮されるやうになつた。かうして、昭和十四年四月には華北交通會社(半官半民の中國特殊法人)が設立され、その後全北支と蒙疆の交通事業は航空事業を除いてすべて同社によつて運營されてゐる。

華北交通會社は本社を北京におき、資本金三億圓(內拂込濟二億三千九百七十万圓)、出資內譯は日本側二億七千萬圓(北支開發一億五千万圓、滿鐵一億二千万圓)、支那側(華北政務委員會)三千万圓で、その事業の範圍は前述のやうに全北支と蒙疆の鐵道を獨占的に經營すると共に、內河水運、自動車等の交通事業も綜合經營し、更に港灣の修築・經營にまで進出し、北支における全交通事業は同社の統制下にある。

(鐵道)

由來、北支は、いはゆる「南船北馬」の北馬の地で、陸運を主とする上に、近世においては久しく全支の政治上の中心であつたために、鐵道は他の地方に比べて最もよく發達してゐる。

事變直前における北支の鐵道は約五千二百キロで全支

一万一千キロの半ばを占めてゐたが、事變後は急速にこれを復舊し、更に積極的に新線の建設を行つて、鐵道網は大いに擴大した。

事變後、わが方が建設、竣工した鐵道は昨年末現在で、左のやうに實に八五七キロに達してゐる。

京古線(古北口—通　州間)	一三一キロ	(熱河を經て滿洲國に連絡する幹線鐵道)
新開線(新　鄉—開　封間)	八八	(新政府側の京漢線と隴海線を占領地域內で連絡す)
北同蒲線(平　旺—大牛店間)	二〇九	(これによつて事變前未成なりし山西省南北の連絡はなつた)
大靑山線(包　頭—石拐子間)	三四	
大台線(門頭溝—大　台間)	三一	
東潞線(東　觀—潞　安間)	一七八	(山西省南東部、棉匪及び炭坑開發に偉効あり)
西佐線(馬　頭—西　佐間)	二一	
石德線(石　門—德　縣間)	一六五	
以上八線合計	八五七	

この中の多くは支線的性質のものだが、**石德線**は、京漢・津浦兩大幹線を結ぶ幹線鐵道の資格を具備したものである。同線は昭和十五年十一月に完成したばかりだが、河北大平原の中心を東西に貫き、井陘、正豐、磁縣、陽泉等の石炭を輸送すると共に、河北の治安確保に大きな効果を期待されてゐる。

以上のほか、なほ建設中または未成線は約四百餘キロに上つてゐる。これらは重點的に運炭線に全力が傾注され、このうちで最も注目に値するのは、大同—塘沽間の運炭專用鐵道(同塘線)の建設である

鐵道の現況は左の通りである。(十五年十月末現在)

線別	區間	キロ數(含支線)	支線
京山線	北京—山海關	四三六	二線あり
京古線	北京—古北口	一五三	通州線
京漢線	北京前門—小翼	八五三	新開線、西佐線等十一線
道淸線	遊家墳—淸化	九五	新鄉線
津浦線	天津北站—蚌埠	九七一	四線あり
膠濟線	濟南—靑島	四五三	博山線等五線
京包線(北京近郊)	豐台—包頭	九一八	大靑山線等三線
石太線	石門—楡次	二三六	井陘炭礦線等三線
同蒲線	大同—蒲州	一、一三八	東潞線等七線

隴海線　連雲—開封　五〇三　一線あり
計　五、七五六（これに石德線一六五キロを加へれば五、九二一キロとなる）

線路復舊と輪轉材料の整備に伴つて、これらは順調に運營されてをり、營業狀況、輸送力等は大體において事變前の水準を凌駕してゐる。

なほ、鐵道を補足するものとして公路と內河水運がある。

公路は昭和十四年度から公路建設五ケ年計畫によつて着々と進行中で、計畫によると主要路線五十六、延長一一、六〇〇キロとなつてゐる。公路上を走る自動車路線も華北交通で一万七百餘キロを經營してゐる。內水路は地勢上、多くを望むことは出來ないが、小淸河、南運河、子牙河、薊運河における華北交通の直營航路は五八四キロ、この外に民船の傭船による同社の經營水路は三千餘キロに上つてゐる。現在二、三の運河掘鑿計畫もあり、同社も內水路には相當の關心を示してゐる。

（港　灣）

北支から日本に搬出される物資は今日既に大量に上つてをり、近い將來には更に飛躍的な増大が豫想されてゐる。そして、その搬出は結局北支の海港から海路によるほかはないが、地勢上からいつても、北支には良港が乏しく、現在でもその能力は既に相當の不足を告げてゐる有樣であるから、港灣の整備は**北支として最も緊急を要する重大問題**である。

（同蒲線の改軌工事）

北支の港灣としては北から秦皇島、天津、塘沽、威海衛、芝罘、龍口、青島、連雲などがあり、どの港を北支の主要門戶港にするかは、技術上・經濟上の見地から、いろ〳〵と議論が分れるところだが、結局、地理的に北支の咽喉を扼し、經濟的に最大の背後地をもつ塘沽を選び、地質その他の技術上の檢討を經て大々的な築港を行ふことになつた。

塘沽新港の建設計畫は昭和二十一年度末の呑吐能力二千七百万トンを終局の目標として、取り敢へず昭和十八年度末までに七百五十万トンの能力をもつ新港を建設しようといふのである。この計畫は北支港灣計畫、否、北支交通輸送計畫全體の中核をなすもので、現在、塘沽を去る二十二、三キロの沖合で荷役してゐる極めて不利不便な狀態を除いて、これを岸壁荷役にかへる一方、白河の水底の跳梁を抑へようといふ雄大な規模の下に強力に遂行されてゐる。

このほか、天津、青島の兩港も昭和十七年度末を一應の目標として、設備能力の大々的增强を目ざして工事に着手してをり、また敵方によつて破壞された連雲港は應急的に復舊工事中であるが、既に中興炭の搬出には相當の役割を果してゐる。

（航　空）

事變前には空の權益は獨米資本によつて壟斷され、日本系のものとしては事變直前に惠通公司が創立されたが、極く小規模のものであつた。事變後、舊勢力は北支の空から急速に退場したが、歐米勢力を驅逐し、東亞自身で航空權を確保するため、昭和十三年十二月に日支合辦で**中華航空株式會社**が創立され、大陸空の交通路を一元的に運營することになつた。同社は前記の惠通公司を吸收し、資本金は當初六百万圓であつたが、翌十四年九月には一擧五千万圓に增資し、その後着々と大陸內航空路の開設と增强に努めてゐる。

同社の航空路は全支に及んでゐるが、北支の分は北京—大連線、北京—上海線、北京—包頭線、青島—太原線、青島—開封線（以上每日運航）、北京—開封線（週三回）の六線がある。

中華航空は、支那大陸內の航空に當り、日支間の連絡

は別に大日本航空が行つてゐる。昭和十三年から東京—北京間の一日連絡があるが、現在は東京—北京間と、京城—北京間の二線があり、いづれも毎日一往復である。

（通信と放送）

郵政　事變によつて郵政機能は壞滅的狀態に陷つたが、日本側の積極的な協力によつて大體舊狀に回復した。昭和十三年八月には舊臨時政府の下に郵政總局を設け、一般業務の指導管理を統制的に行はせることにしたが、これはその後華北政務委員會によつて繼承されてゐる。この實力はかなり充實して來たが、なほ舊國民政府下の郵政總局（昆明に逃避中）から完全に離脫するまでには至つてゐない。それは主として郵政の一元的・技術的本質に基づくものである。

電氣通信　事變によつて電氣通信も多大の損害を受けた。日本側の急速な協力によつて漸次その機能を回復したが、まづ昭和十三年一月一日には華北電政總局を設けて、次いで恒久的な經營主體として同年七月には**華北電信電話會社**が設立され、その後は同社の手で行はれてゐる。同社は日支合辦による中國特殊法人で、資本金は三千五百万圓、業務は順調に進捗してゐる。

放送　最初は軍の管理下で行はれてゐたが、これを統一的に經營する本格的な機關として昨十五年七月一日に日支双方の醵出で、中華民國特殊公益法人の財團法人**華北廣播協會**が設立された。同協會は北京を本據として、北京、天津、濟南、青島、石家莊、太原、唐山、徐州の各地に放送施設をもち、その多くは華語と日本語との兩設備を併有してゐる。協會の方針としては特に日滿支放送圈の實現を期してゐる。

內閣統計局編纂

昭和十五年國勢調査內地人口數

昨年十月一日施行された國勢調査の結果による市町村別人口確定數は、さきに內閣告示を以て發表されたが、本書は之を一册に取まとめ、府縣名の索引を附したもの

定價二十錢（送料六錢）で全國各地の官報販賣所並に一般書店で發賣して居ります。

內閣印刷局

貿易

世界は次第に廣大な地域別の經濟圈建設に向つて動いてゐる。殊に最近における英米の對日經濟壓迫の强化は、事變目的の完遂に邁進してゐる日本經濟の內部的な要請と相俟つて、日滿支並びに東南アジア一帶を包含する自給自足の共榮圈を確立し、その圈內における資源に基づいて國防經濟の自主性を確保することを不可避的にしたのである。

いふまでもなく、**日滿支を一環とする、いはゆる圓ブロックは東亞共榮圈の根幹として、いはばその第一次的構成員である。**従つて圓ブロックの中心課題が日滿支三國間における物資交流關係の確立にある點からすると、新生支那における新らしい貿易體制の成否は、東亞共榮圈建設の前途を決定するものと言つても過言ではない。

事變勃發の翌年、昭和十三年三月、北支貿易及び國內通貨として圓元パーの原則の下に聯銀券が發行され、ここに北支經濟は日滿とともに圓ブロックの完全な一環として登場した。物資交流の基本條件としての通貨の役割は今更贅言を要しない。圓系通貨である聯銀券の育成と圓ブロック貿易體制の强化とは、互に表裏一體の關係となつて着々と進展してゐる。即ち、聯銀券創設の直後、昭和十三年十月には**外國爲替基金制と輸出入リンク制**を實施して、聯銀券の貿易通貨としての機能を强化し、翌年三月には北支の主要輸出品十二品目について輸出爲替集中制を施行し、更に同年七月にはこの爲替集中制を全品目に擴大して、劃期的な爲替並びに貿易管理を斷行し、次いで昨年六月には無爲替輸移入許可制を實施して、貿易體制の完璧を期してゐる。

事變以來の北支貿易の推移を概觀すると、その進展は眞に目覺ましいものがある。事變發生の當年即ち昭和十二年度から見ると昨年度に於ては約四倍に當る驚異的膨脹を示してゐる。

北支貿易の躍進は固より治安の回復と經濟建設の進展に照應するものであることは勿論だが、對日滿貿易の

進展に負ふところの多いことも見逃し難い。

事變後の北支貿易の特長は、**顯著な對日依存の增富と輸出入の甚だしい不均衡の二點に歸する**ことが出來る。即ち、昭和十二年度において總輸出入額の三五%を占めるのに過ぎなかつた圓ブロック貿易が、一昨年及び昨年度においては五六%、四七%と、北支貿易の大體二分の一程度が圓ブロック貿易によつて占められるやうになつた。このやうな圓ブロック貿易の進展は、東亞共榮圈の建設に邁進してゐる日華兩國にとつてもとより歡迎すべき現象であると同時に、日滿支一體の理想から見て、必然の要請でもあるが、一方、その尨大な輸入超過は北支經濟の立場からしても、また日本經濟の立場からしても緊急に解決を要する大きな課題を提起してゐるものといへよう。

しかしながら、圓ブロック貿易の大きな特質はその政治的性格である。圓ブロック貿易に關する限り、單なる貿易收支といふ純經濟的な立場のみから見ることは出來ない。大陸經濟の建設と北支民衆の生活安定といふ大きな使命をもつからである。從つて、それは我が國よりする建設資材と生活必需品の相當大量な供給を必然的に要求するものであつて、このことは一方、高度國防國家の建設と事變目的完遂に向つて邁進してゐる我が國にとつて、大きな經濟的負擔であることは爭へない。圓ブロック貿易の調整が早くから問題となり、**東亞共榮圈確立の基礎工作としての圓ブロック貿易の計畫化**がとり上げられるのも、右のやうな事情に基づくものである。

かくて事變以來、わが國の戰時經濟の進展と共に圓ブロックに對する貿易統制も逐次强化されて來た。即ち、昭和十四年九月には**滿關支輸出調整令**が施行され、更に昨年八月には右の調整令を改正して、從來の部分的な統制を全面的に擴大し、こゝに圓ブロック貿易の數量的な統制は一應整備の段階に達した。

ブロック經濟の理想的な形態は彼我物資の均衡的な相互交流にあることは勿論であるが、內地と大陸との物價水準の不均衡に起因して、輸出調整令の施行後も、內地物資は盛んに大陸に流れ込み、一方大陸からの對日滿輸

出をも抑制する傾向さへ示したが、昨年九月、**滿關支輸出品價格調整令**の實施によつて、こゝに圓ブロック貿易は數量と價格の双面からする統制の段階に入り、現地と內外地における取引機構の整備と相俟つて、着々と統制の實を擧げてゐる。

通貨

戰火の北支に通貨建設へと中國聯合準備銀行の進んで來た道は決して平坦なものではなかつた。昭和十三年三月十日に開業した**中國聯合準備銀行**は、政府によつて附與された貨幣發行の特權を持ち、唯一の北支法貨として聯銀券を發行し、これによつて北支通貨の統一を完成、また北支金融の中樞機關として政府と民業との間に立つて新北支の經濟建設、延いては大東亞共榮圈の確立に寄與すべき重大使命を負つた。北支經濟建設の基底としての聯銀券の强化こそ、中國聯合準備銀行に課せられた使命を達成するための前進目標であつた。

聯銀券は紙幣發行高に對する百分の四十以上の金銀、外國通貨及び外國預金による現金準備と百分の六十以下の公債、政府發行或ひは貸附金による保證準備を保有する規定の下に發行される。從つて、發行準備が確實でない敵性通貨と對戰する聯銀券の勝利は既に闘はずして瞭らかであつた。しかし、同行開業當時の北支には整理統一さるべき三十餘種の雜多通貨があり、また眞先に肅正さるべき敵性通貨、舊法幣が深く根を張つてゐた。從つて、聯銀券强化の途上には幾多の克服すべき障碍が起伏してゐたのである。この障碍を中心として、聯銀券强化工作の成功經過を記錄すると、國內通貨統一時代、聯銀券價値維持時代及び物資確保時代の三段階に分けることができる。

第一段階の國內通貨統一時代は昭和十三年三月十日に開業と同時に舊通貨整理辦法を公布し、同六月十日を以て南方法幣の流通を禁じたのに始る。次いで同八月と翌十四年二月の二回に亘つて北方法幣の切下げを斷行し、開業一年後の昭和十四年三月十日には一切の舊法幣の流通を禁止し、早くも通貨統一工作を完遂して次の段階に

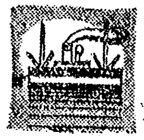
入つた。**第二段階の聯銀券價値維持時代**は昭和十四年三月十一日の外國爲替一部品目聯銀集中制の實施に始る。更に同七月十七日には、集中制を全品目に擴大し、越えて昭和十五年一月二十三日にはこれに關する免除規定を撤廢して集中制を一段と強化し、次いで同六月二十五日から無爲替輸移入の許可制を採用し、これによつて聯銀券の對外價値は完全に維持されることになつた。**第三段階の物資確保時代**は昨年九月に日獨伊同盟の發表と共に、聯銀は國際情勢の急展開に對處すべき方策によつて、實施統一された金融力と維持された通貨價値とで北支に必要な物資確保に萬全の準備を整へたのに始り現在に及んでゐる。

（女學校生徒——北京）

このやうに、聯銀券は日本圓等價の原則の下に、まづ國內通貨としての確固とした立場を築き、次いで貿易通貨としての機能を獲得し、進んで物資確保の要具にまで發展して來たのである。また、その發行高も增加し、昨年末の七億一千五百餘万圓、本年一月末七億四千餘万圓と累增したが、その後は六億圓臺に收縮して最近五月中旬の發行高は六億六千万圓餘となつてゐる。

聯銀券の發展と相俟つて聯銀の地位も全く不動のものとなり、北支の新體制は當然聯銀を中心とする金融政策に反映し、相共に無限の進展を約束されることになつた。

このことは聯銀の業績に如實に表はれ、昨年末現在の預金總額は五億九千四百七十餘万圓と、前年末に比べて一億五千二百七十餘万圓を增加し、貸出總額も三億一千六百八十餘万圓と、前年末に比べて一億四千四百八十餘万圓を增加して、全面的に顯著な躍進振りを示したのである。正に發展の途上に横はつた障碍は次から次ぎに悉く征服され、北支經濟建設の基底は既に成つたのである。この基底の上に構築される北支經濟建設こそは大東亞共榮圈生成發展の重要な糧であり、絶大な力である。



文化工作

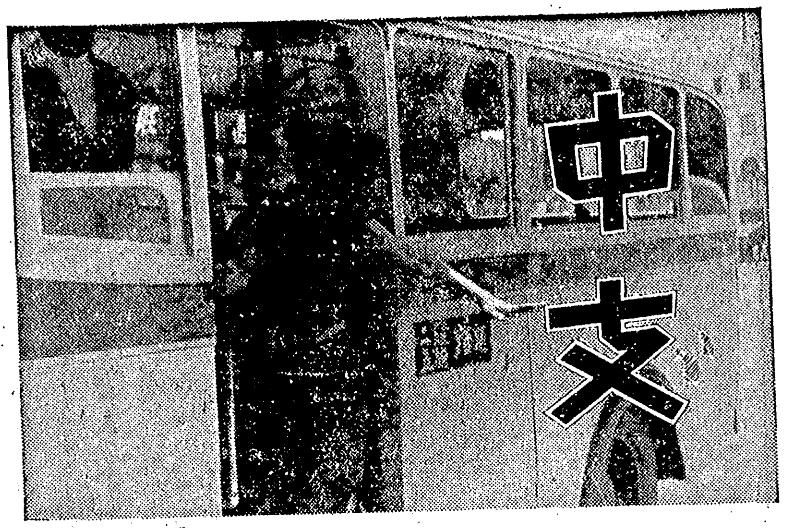
國民政府の成立と同時に、臨時政府は華北政務委員會に改編されたが、同委員會は文化政策においても臨時政府の方針を踏襲してゐる。教育一般は同委員會の下にある**教育總署**が行ふところであるが、今年初めから故湯爾和氏の後をうけて同署督辦に周作人氏が就任した。周作人氏はいふまでもなく中國文藝界の元老であつて、氏の就任には大きな期待をもたれてゐる。

國立北京大學は北京、北平、清華、交通の四大學を合併し、醫・工・農・文・理の五學院を併置した綜合大學であるが、四年制であつて、今年度とともに各學年が充實するわけである。これらの例が示してゐるやうに、徐々に整備され、新らしい東亞文化の基礎を築かうとする方向に向つてゐる。

衛生、厚生は政務委員會內務總署が行ふほかに、**新民會**、**同仁會**その他の機關が協力してゐる。新民會は北支における民衆指導、社會教育、社會施設の各般にわたつて活動してゐる一元的な機關である。

學術機關の最近の活動としては、東亞文化協議會が昨年九月に北京で第四次評議員會を、中國醫學大會がやはり九月に北京で第二回大會を開き、また華北農學大會、佛教同願會その他も開かれて、日支文化の協和に努めてゐる。

中支



國民政府の現狀

中華民國國民政府は支那事變直後成立した華北中國臨時政府と南京維新政府を合併して昭和十五年三月、代理主席汪精衞氏首班の下に誕生し、南京に還都した。

同政府は十大政綱を發表し、蔣政權が容共抗日に墮したのを匡正して、反共和平の建國を標榜し、民國國旗である青天白日滿地紅旗の上部に反共和平の四字を書入れた白布を揭げて國旗とした。そして國民黨總理故孫文氏の大亞洲主義と三民主義を繼承して、わが國の主唱する東亞新秩序建設に協力し、完全なる獨立と日支國交の調整を目標として進んだ。同年十一月には日支國交調整基本條約及び日滿支三國共同宣言が締結、發表され、政府主席林森氏の法定在職期間滿了後は林森が重慶にあつて眞正の職務執行は不可能であるため、汪氏が政府主席の正位に進み、褚民誼大使を本邦に、廉隅大使を滿洲國に派遣した。また、內政方面においても憲政實施の準備、東亞聯盟運動の促進、中國敎育方針の確立、軍事の整備、產業の建設、財政の整理、中國

儲備銀行の設立等、着々と治績を擧げてゐる。

國民政府は中支に基礎を置いて全國を統一しつゝあるが、今日に至るまでの經過を略述することが、國民政府の性格を明らかにし、今後の發展を知る便宜となるだらう。

事變と共に生れたのが北支の治安維持會であり、それが臨時政府となつた。北支は元來わが國とは各方面に亘つて密接な關係があり、舊國民政府に對しても隱然たる一獨立勢力をもち、また、國民黨に反對の舊北京政府の流れを汲む北方派政客が存在したために、北方政府の樹立は比較的に簡單に行はれたが、中支那はこれとは全く異る狀態にあり、元來、國民黨政府の治下にあり、北方人が從順なのに比べて人氣が荒く、また、政客の多くは蔣介石政權と共に武漢に去り、重慶に移り、こゝに新らしい政府を造るのには非常に骨が折れたが、まづ上海に大道市政府が生れ、各地に治安維持會が出來、昭和十三年の三月には、遂に南京に**中華民國維新政府**の成立を見るに至つた。この維新政府と臨時政府との協同のために**聯合委員會**が生れたが、一方では我が軍の作戰が進んで武漢、廣東が陷り、更に我が政府の方針が蔣政權を相手にせず、新政府と共に東亞新秩序を維持することになつたため、こゝに統一の新政府の樹立を必要とするに至つた。

ところが、我が事變處理の根本方針を示す近衞三原則の發明に呼應して、**汪精衞氏**は重慶を脫出し、和平を聲明して立ち、こゝに次第に機が熟して、昭和十五年三月、南京に**中華民國國民政府**の成立を見るに至つた。その結果、維新政府は解消して國民政府に合流し、北支の臨時政府もその名目を改めて合流したが、北支の特殊性に鑑み、華北政務委員會をおいて高度の自治性をもたせ、王克敏氏が引續き委員長となつたが、次いで王揖唐氏がこれに代つた。國民政府は中央集權ではあるが、舊國民政府のやうな極端な中央化を行はず、北支の特殊性を尊重して政務委員會設置の處置を取つてをり、また、現國民政府の中核として純正國民黨がこれに當つてゐるが、しかし、從來のやうな一黨專政の弊を避け、各黨

各派の加入を認め、また、廣く一般人才を收容し、たゞ、國民黨が中心となつて纏まりをつけてゐるに過ぎない。

従つて、その建國の根本に至つては重慶と大いに異るものがあり、重慶が抗戰による建國を標榜してゐるのに對し、新政府は和平建國を主張し、和平の手段によつて建國の目的を達しようとしてゐる。また、重慶が國共合作によつて中國共産黨と提携してゐるのに對して、新政府は防共を旗幟として高く掲げてゐる。重慶政權は抗日のため勢ひ英米ソの外國勢力と結び、その走狗になつてゐるが、新政府は東亞共榮圏確立の趣旨から隣邦親善を標榜してゐる。かうした根本的な相違をもち、わが東亞新秩序の建設と方針を同じくし、相携へて新支那の建設に邁進してゐる。

そこで、新政府成立一年來の治績について少し述べて見なければならぬ。まづ政府組織についてみると、着々として基礎が固まりつゝある。即ち國民政府は行政、立法、司法、監察、考試の五院を以て組織し、行政院の下に内政、外交、財政、軍政、海軍、教育、司法行政、工商、農鑛、鐵道、交通、社會、宣傳、警政の十四部を置き、諸般の行政事務を執行してゐる。そして中央政治委員會の下には法政、内政、軍事、財政、經濟、交通、教育、社會事業等の各専門委員會を設けて政治の根本大綱を研究し、政務推進の强化機關としてゐる。

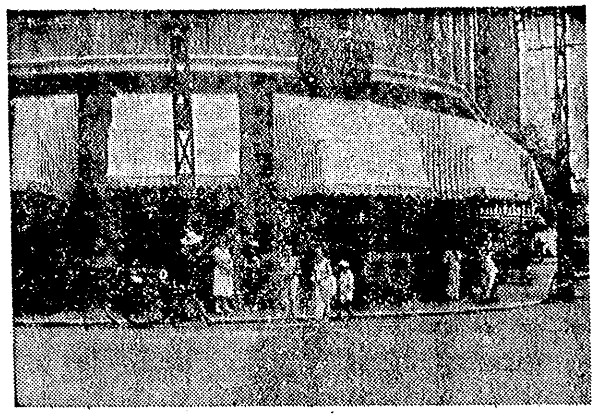
軍事方面では最高機關である軍事委員會の下に參謀本部、軍事參議會、軍事訓練部、政治訓練部を置いて、軍機軍令訓練に關する諸政を統轄し、軍政部・海軍部を行政院に隷屬させると共に、軍事委員會の統轄を受けさせて軍政・軍令の連繋を謀らせてゐる。

河北、山西、山東、河南及び江蘇、徐州、海州地方は舊臨時政府の治下で、政府成立の沿革と地方情況が華中方面と趣を異にしてゐるため、特に華北政務委員會を北京に設けて、内政、財政、治安、教育、實業、建設の六總署に分ち、各總署に督辦を置いて諸政を分掌してゐる。

地方行政は河北、山東、山西、江蘇、安徽、河南、湖北、廣東の各省主席の下に、民政、財政、教育、建設、警務の諸廳を置き、また、北京、天津、青島、上海、南京、

武漢、廣東、厦門の八大都市には特別市制を布いてゐる。

前記の中央官制五院中、監察院と考試院の二つは支那政治史上に特別の意義を有するものがある。



（漢口市街）

政府組織の整備と共に、國民黨の建直しが行はれた。重慶にある國民黨が邪道に陷つたのに對し、これを救済するために立つた汪精衛氏の一派としては、純正國民黨の樹立が必要となつた。國民黨における元來の地位からいへば、孫文氏との關係では、汪氏が長男で蔣介石は次男格である。ところが、次男が家を繼いで横道に迷ひ込んだため、長男がお家のために立つて次男を斥け、自ら正統を繼いだので、抗戰後の重慶國民黨の行動を否認し、中國國民黨正統派として純正國民黨が生れ、南京に中央黨部を置き、黨の陣容を整備し、昨年十二月には南京中央黨部で第六屆中央執行委員會第三次全體會議、即ち三中全會を開くまでになつて、黨の活動も軌道に乘つて來たし、中支にあつた大民會その他も次第に國民黨に吸收されて來た。黨の方向は和平實現、憲政實施の工作にある。和平は、まづ局部的和平を實現し、これを全國的な和平にまで擴大することにある。憲政實施については、政府は獨裁政治を脱却し、眞正の三民主義的な法治國家とする目標の下に、政綱第五項の「國民大會を召集し憲法を設定し憲政を實施す」に基づき、昨年四月三日、憲政實施委員會組織條例擬草方を發令し、六月に組織大綱

七條を定め、七月には國民政府大禮堂で成立式典を擧げた。爾來、五・五憲草（民國二十五年五月五日宣布、二十六年五月修正、同十一月國民大會に附議された憲法草案）について分科審議を終り、目下聯合審議を進めてゐるので、近く憲法も生れ、國民大會召集にまで漕ぎつけるであらう。

國民政府建設の基礎となるのは**治安の確立**である。治安が確立しなくては政治工作も、組織工作も、文化工作も行はれない。ところが、重慶政府では新政府管内に遊擊戰を展開して治安を攪亂してゐるので、これを肅淸するために今日まで主として我が軍の力によつてゐたが、新政府に治安維持を擔任させるため、新たに軍隊を編成し、幹部の訓練を行ふに伴つて、抗日軍の歸順するものが多く、最近も江北で數万の軍隊が一時に歸順した。また、各鄕村の治安を確立するため、鄕村の自衞に力を注ぎ、淸鄕運動が次第に叫ばれて來た。かうして地方の治安工作も緒に就きつゝある。

國民政府を成長させ、重慶政府を沒落させるためには、民衆に安居樂業を與へねばならぬ。民心を攫むことが最大の急務である。民心を得るためには民衆の生活を安樂にしなければならぬ。それには治安の確立と共に生活安定の策を講ずることが必要で、この點については新政府は成立以來大いに努力を拂つて來た。卽ち、政府の成立直後、從來最も人民を惱ましてゐた苛捐雜税を廢除することになり、南北各省共にその實行に移つてゐる。また、事變による失業救濟のために振務委員會が生れ、都市と農村で活動してゐる。更に積極的に增産指導と供給の合理化が行はれ、殊に農村經濟に注意し、種々の機關が設けられ、壯丁徵發、拉夫などの重慶の惡政によつて極度に疲弊してゐる農村勢力の涵養、合作社運動による農民生活の向上等が講ぜられてゐる。また、民衆生活に最も必要な鹽と米の供給については、その萬全を期し、國民政府は食糧委員會を設け、目下全力を擧げて努力を拂つてゐる。

國民政府建設工作の進捗は、その財政、金融の整備によるが、**財政**は收支相合し、それに還都當初の月額收入

中支

豫算一千六百万元のものが、一年後には二千六百餘万元と大增加を示してゐるのは、それだけ新政府の活動力が增大したわけである。收入の主要部をなす關税、鹽税、統税なども、還都三ケ月で正常に復したといはれ、今後の發展には期すべきものがある。**金融**方面では北支に聯合銀行があり、中支に華興銀行があつたが、これを統一することが、政治統一の上からも大いに必要とされ、**中央儲備銀行**が中央の發券銀行として南京に開店し、上海に支店を設けた。金融の性質上から非常に愼重な方法を採つたが、豫想以上の發展を遂げてゐる。

新政府の標榜する隣邦和親のためには、まづ國民の敎育から改める必要があるので、從來の排日敎育を一掃して、反共和平建國精神を敎育の根本方針とし、更に科學敎育の提唱と浮薄な學風の一掃に向つて邁進し、小學校、中學校の整備、高等敎育の復活に努めてゐる。

以上、國民政府一年の業績に見ても明らかなやうに、東亞新秩序の建設に向つて、着々と健實な步を進めて居り、今回の汪主席の來訪によつて日華關係は一段と强化され、國民政府の發展に期待されるに至つた。

中支の鹽業

北支の經濟開發が北支那開發株式會社を中心に建設の步を進めてゐるのに對して、中支では昭和十三年十一月、**中支那振興株式會社**（資本金一億圓）が創設され、直ちに中支復興三ケ年計畫を立て、爾來、同社傘下の十三子會社を動員して着々と建設計畫を遂行してきたが、こゝでも北支と同樣に、東亞自給經濟確立の强化に伴つて、重要國防資源の開發に最も重點が置かれることになつた。

中支における重要資源の一として、**鐵鑛石**とともにその開發に集中的努力が加へられてゐるものに**鹽**がある。

中支における最大の鹽の産地海州は、北支の長蘆鹽、山東鹽區と共に支那六大海鹽場の一つである。海州鹽は淮北鹽ともいはれ、江蘇省海州一帶の黄海沿岸地域に産し、同區は氣候、土質共に製鹽に惠まれた見渡す限り坦々とした一大平地で、鹽場はその間に點々として展

開してゐる。この天與の好條件に惠まれた二万五千町歩に及ぶ海州鹽田は、ひと頃その產額、年七十万瓲近くにも及んだが、事變前、國民政府の高率な鹽稅徵收のための壓制により、鹽田の荒廢は甚だしく、鹽田從業の細民は、晝なほ薄暗い茅屋の土間に製鹽器具と共に起臥して僅かに露命をつないでゐる有樣であつた。

そこで、この海州鹽田の事變以來數十万瓲に上る貯鹽の處理と鹽場復興の助成をはかり、鹽民の生業を安固にすると共に、現地並びに對日供給を圓滑にする目的で、昭和十四年八月、中支振興の子會社として華中鹽業株式會社（資本金五百万圓）が設立されたのである。爾來同社は鋭意開發に努力し、創立直後に被つた風水害にもかゝはらず、よくその困難を克服して、まづ滯貨の處分を促し、製鹽の換金を講じた結果、鹽田は忽ち活況を呈するに至り、既に昨年度の配給も相當の實績をあげることが出來た。本年度には漸次舊式な鹽田を改修して技術的模範鹽田を作り、從來に數倍する增產をはかる計畫である。また、精鹽工場については、事變前この地に樂郡公司、通益公司、久大公司の三工場があつたが、事變に際して撤去し、釜、機械等の設備は殆んど破壞されて建物のみが殘存してゐたが、久大公司の經營してゐた大浦（海州と連雲港との中間）の工場はその後、復舊補修も順調に進み、今は操業の運びとなつてゐる。

その他、揚子江周邊の浮動私鹽の集中についても、昨年七月、呉淞鎭と南京に收容倉庫を建設したり、更に廾正島鹽、海南島鹽の移入にも着手するなど、一意增產に邁進

してゐるが、將來は新鹽田の開發や精鹽加工化學工業への進出も企圖されてをり、鹽民救濟と鹽業振興の一石二鳥を期して中支の製鹽開發は着々と進んでゐる。

交通・通信

中支は昔の「南船北馬」の南船の地であり、水運は非常によく發達してゐる。地圖を一見して分るやうに、支那大陸の大動脈である揚子江が中央を貫流し、大小の支流がこれに連なり、殊に下流三角地帶では、天然と人工のクリークが縱横に交錯してゐる。從つて中支は支那の經濟的中樞部であり、民生が最もよく發達してゐるにもかゝはらず、近代的な交通機關である鐵道は割合に發達せず、北支に比べると遙かに貧弱である。鐵道が壓倒的である北支の交通が華北交通に掌握されてゐるのに對して、中支の交通は未だ一元的に經營されるに至らず、水陸それ〴〵別個の主體に分屬する所以である。

〔鐵道〕昭和十二年十二月、鐵道省派遣團によつて鐵道部隊（軍鐵道局）が組織され、占領地鐵道の復舊と運營に當つたが、その後戰火が遠のいて長期建設戰が始まるとともに、鐵道經營にも恒久的形態が考慮されるに至つたのは、北支と同樣である。昭和十四年四月三十日、華北交通と殆んど期を同じくして、華中鐵道會社が創立され、中支の鐵道は爾來同社の手で運營されてゐる。

中支は揚子江を中心とする地域であり、こゝでは揚子江が運賃の低廉な一大交通路をなしてゐる

中支の農業

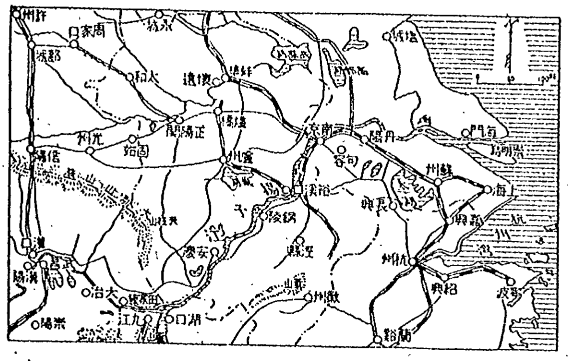
久しく疲弊の中に沈淪し、更に戰禍によつて打擊を蒙つた中支農村も、今や日支協力の下に複雜な困難を克服して復興の途に向ひつゝある。

揚子江が貫流するこの大平野は米作を中心とする豐饒な農業地帶であるにもかゝはらず、いろ〳〵の社會的な惡條件のために農業生產は衰退し、外國からの食糧輸入に依存するみぢめな狀態にあつたが、更に事變以來、食糧問題の困難は一層拍車をかけることになつた。

從つて食糧問題の解決、食糧自給自足の確立は經濟建設の前提であるが、品種の改良、栽培方法の改善などによつて、食糧增產計畫は萬難を排して遂行されてゐる。例へば、中支における米の收穫率は日本の約半分であるが、優秀な日本農業技術の指導の下に諸般の改良を行へば、二〇—三〇%の增產は必ずしも困難ではない。

また、東亞經濟圈の確立にとつて重要な意義をもつ棉花は、中支も栽培の好適地であることが確認され、昭和十三年の夏に成立した中華棉產改進會等の手によつて增產計畫が進められてゐる。更に奧地物資の買付と地方農民の政治的・經濟的組織化工作の重要

ために、鐵道の發達は前記のやうに極めて貧弱であり、全支の心臓部ともいふべき下流三角地帶には南京——上海間の舊京滬線（現在の海南線）を中心として若干の鐵道を配し、こゝに小規模ながら、鐵道網の形狀をとつてゐるほかは、安徽の淮南、江西の南潯、武漢方面の京漢、粤漢等の諸線が斷片的にそれぐ遠く懸絶して散在するに過ぎず、中支一帶に亘る鐵道網は存在しない。北支鐵道が廣大な地域に亘つて一大鐵道網を組成してゐるのに比べると非常な相違である。このうち武漢附近の京漢線（循禮門——長臺關間二二一キロ）、粤漢線（東武昌——岳州間二三六キロ）と江西の南潯線（九江——南昌間一二九キロ）計五八六キロは今なほ軍が管理、運營する純然たる軍管理鐵道であるから、華中鐵道の經營線は南京—上海を中心として相連なる小規模の鐵道網と安徽の淮南線及び津浦線の一部分に過ぎない。



中支には、事變以後に既設線の改良強化を行つただけで、北支のやうな華々しい建設は未だ行はれてゐない。しかし中支

手段である**農村合作社運動**は次第にその組織網を擴大し、農村復興に努力してゐる。これら中支の農事改良指導の中樞機關として**中央農業實驗所**が、昨年開設されたことは劃期的な進歩を約束するものであらう。

實驗所は元來舊國民政府の手によつて昭和六年、設立に着手され、事變直前に完成を見たのであるが、戰禍のために全く荒廢に歸してゐた。そこで、新國民政府は昭和十五年六月四日、組織規程を決定し、直ちに復興に着手した。

實驗所は農鑛部に直屬し、部長趙毓松氏が所長となり、農藝系、森林系、蠶桑系、畜牧獸醫系、土壤肥料系、植物病蟲系の六系に分れてゐ

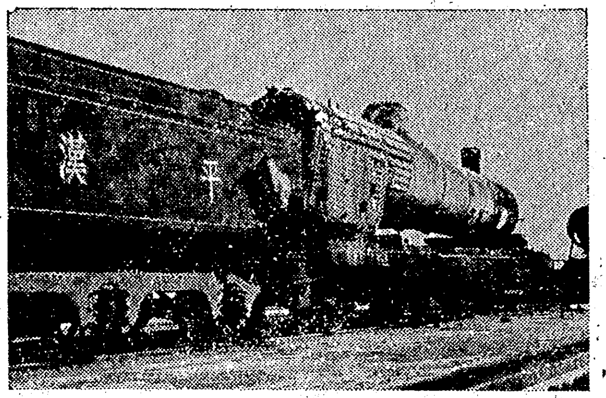
唯一の石炭資源である淮南炭の揚子江岸輸送を目的とする淮南線は事變によつて徹底的に破壞されたが、この復舊は中支産業の振興上、焦眉の急とされたので、軍及び華中鐵道が協力して、殆んど新線建設にも勝る努力の結果、昨十五年十月、裕溪口——田家庵間二一四キロの開通を見たのである。

鐵道の現況は左の通りである。

線別	區間	粁數	支線
海南線	上海—南京	三一一	
海杭線	上海—杭州	一九七	海杭支線
呉淞線	上海—砲臺灣	一七	
蘇嘉線	蘇州—嘉興	七四	
南寧線	南京—灣沚	一四二	
津浦線	浦口—蚌埠	一七七	
淮南線	裕溪口—田家庵	二一四	
計		一、一三二	

同社の營業成績は開業當初には相當の缺損を免れなかつたが、次第に業績は向上し、今十六年度末には十四年度以來の缺損を補塡した上に若干の黒字を見られる見込である。

なほ、同社は上海、南


（敵軍が破壞していつた當時の機關車—平漢の文字が見える）

る。この復興には、興亞院が設立前から幾多の危険を犯し、復興の事務、技術的指導に當り、主要建物の建築等も着々と進行し、圃場試驗も逐次着手されてゐる。設備等の完成までは全般に亘る研究は不可能だが、現在は食糧作物、纖維作物、畜産物の試驗研究、改良增殖に主力を注いでゐる。事變前には米國人の指導によつて大農式の農業技術が研究されてゐたが、これを一變して支那農業に近似した日本農業の技術方式を注入して、眞に東亞共榮圏の研究指導機關とするために努力を續け、日支の協力は將來その輝かしい成果を結ぶことであらう。

京を中心として一千五百十五キロの自動車路線を經營してゐる。

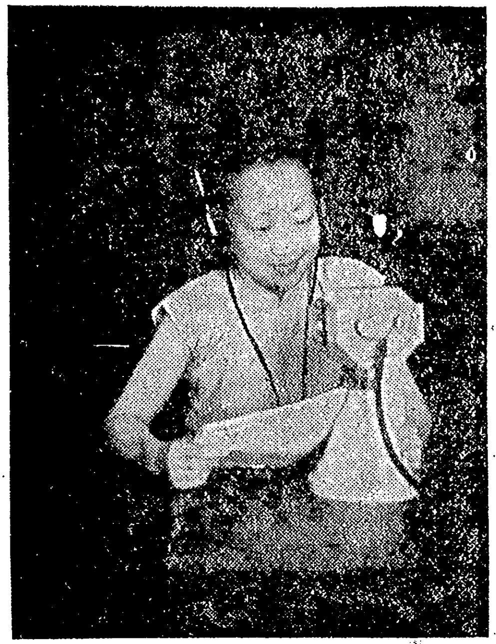
〔水　運〕　中支交通の中核が揚子江を中心として四通八達した水路による水運にあることは既に述べた通りである。長江航路は事變以前にも我が航運業者が航權の獲得に多年の努力を傾けた所だが、支那のほかに歐米各國の船隊も進出して、華々しい國際航運戰が展開され、しかもその間、英國の王座は容易に搖がなかつた。しかし、事變による長江の航行遮斷は各國船の勢力の消長に大きな影響を與へた。支那船は壞滅的な打撃を受け、また歐洲戰の影響もあつて、英國船も衰運に向ひ、邦船の進出には絶好の機會が到來した。

この事態に即應して、中支の水運を維持し、進んで長江と支那沿岸から歐米勢力を驅逐すべく、新たに三つの船會社が生れ、中支の水運、否、全支海運の第一線に立つてゐる。即ち、東亞海運、中華輪船及び上海內河汽船の三社である。東亞海運は日支間と支那沿岸及び長江の開港場間の航運に當り、中華輪船は長江の不開港場と開港場の間及び不開港場相互間の東亞海運の培養的勢力をなすのをその任とし、內河汽船は最もローカルなクリークの航運を行つてゐる。

東亞海運は東京に本社をおく日本の會社であるが、支那關係の日本海運勢力を綜合統一して、わが航權を確保、伸長し、東亞における日本海運の絕對的優位を確立するために、昭和十四年八月五日に創立された。郵船、商船、日清汽船その他、日本各社の支那關係航路と就航船舶及び碼頭設備等を統合したもので、昨年十二月一日現在の就航船舶は社船、傭船を合せて總隻數八十六隻、二十三万七千總噸に達する。資本金は七千三百万圓であるが、今度の議會で一億圓に增資することに決定、近く實現の筈である。同社が直接に中支の水運にタッチしてゐるのは、長江線として上海―漢口線のみであるが、これは實に中支水運の大動脈である地位を占めるものであり、隻數二十三隻、總噸數は五万噸に近い。なほ、長江流域に三十六ケ所の碼頭と棧橋をもつてゐる。

中華輪船會社は昨昭和十五年二月二十五日に創立された日支合辦の中國特殊法人で、資本金は三千万圓、日本側からは東亞海運、中支振興の兩社が出資してゐる。本社は上海にあり、現在運航船は十七隻八千五百噸、航路は主として揚子江下流方面に五線を經營してゐる。

上海內河汽船會社は三社のうち最も早く、昭和十三年七月に創立された日支合辦の中國普通法人で、本社は上海にあり、資本金は二百万圓、そのうち九十三パーセントは日本側の出資である。會社としての規模は小さいが、蘇浙皖の三省に亘つて縱橫に航路網を張りめぐらし、昭和十五年度末には五十七線、三千餘キロに達してをり、運航船舶は合計一九四隻、四千五百餘噸で、地方物資の運輸上に大きな役割を果してゐる。


（漢口放送局のアナウンサー）

〔航　空〕　大陸內は中華航空が、日支連絡は大日本航空が受持つてゐることは北支と同樣である。

中華航空の航空路のうち、中支に關するものは、北京―上海線、南京―漢口線、上海―漢口線、上海―大連線、上海―廣東線、上海―杭州―南京線の六線で、運航回數は何れも每日一回である。

大日本航空の日支航空路は北支と同じく昭和十三年十月から東京―南京間の一日連絡を見、現在每日一往復してゐる。

〔通信・放送〕　郵政　支那の郵政は、もと

支那海關の一部として創始され、後、郵政部として獨立したが、その首腦部は海關と同じく、創立以來外人によつて占められ、多年の歴史と傳統とによつて、海關と同じく一種特別の機關を形成し、事業としての團結力が強く、數次の政變に當つても超然として政治の圏外に立つて業務の運行を維持して來た。支那郵政の性質がかういふ風であり、中支はその中樞地域である上に、對外關係も最も深いので、中支には舊郵政部の勢力が殘存してゐるが、南京に國民政府が成立した以上は、結局、國民政府が郵政を把握し、全支郵政の中心を確立せねばならぬことは勿論で、漸次その方向に進まうとしてゐる。

電氣通信　戰禍のため電氣通信の設備は甚大な打撃を受けたので、日本側では、極力その復舊と運營につとめ、過渡的に華中電信公司を設けてゐたが、本格的な機關として昭和十三年七月末、**華中電氣通信株式會社**が創設され、統一的に運營されてゐる。同社は日支合辦の中國特殊法人で資本金は千五百万圓である。

放送　上海を中心に、南京、漢口、杭州、蘇州に放送施設をもち、華語放送を中心に日本語放送を混ぜ、報道宣傳の工作を行つて來たが、北支と同様の目的で、本年初めから日支折半で約八十万圓を基本財産とする財團法人華中放送協會を設立、爾來その手によつて行はれてゐる。

支那事變四周年第二特輯　七月九日號
☆この備へこの構へ―陸軍兵器廠
☆青紙召集令―福岡縣下男女青年團の軍役奉仕
☆火を吹く北支の資源
讀物
動く世界情勢とわれらの覺悟
復興めざましき北支の現況―興亞院華北連絡部文化局長陸軍大佐　松井眞二
☆ハリキル銃後(漫畫)
☆家庭生活の新體制―七月の卷
☆何日君再來―廈門の華僑踊る
☆建設列車先行　☆滿四年
定價十錢
寫眞週報

鑛産開發の現況

中支、殊に揚子江流域には鐵、石炭が廣く分布してゐる。すなはち、

鐵は揚子江に沿ひ、漢口に至る四百粁の間に散在し、大冶、當塗、句容、江寧、丹徒、長興の六ブロックの鑛床を形成してゐる。埋藏量は江蘇省四百万瓩、浙江省三百万瓩、安徽省五百万瓩、湖北省二千万瓩で、品質は大體に鐵分五〇%以上を含む良質の赤鐵鑛、磁鐵鑛である。豐富な鐵鑛は近距離の鐵道輸送で揚子江岸に達し、こゝから舟運によつて各地に搬出される。水路の發達は、この地域の資源を非常に有利な地位においてゐるのである。

大冶鐵山は鐵山、得道灣、象鼻山及び紀家絡の鑛床群を包含し、以前は漢冶萍公司、湖北省政府によつて經營されてゐたもので、事變と共に設備、鐵道等は徹底的に破壞されたが、逸早く復興に着手した結果、既に相當の實績を擧げてゐる。

南京近傍の鐵山設備も、大部分破壞されたが、速かな復興ぶりを見せ、技術日本の本領を發揮してゐる。開發には、**華中鑛業股份有限公司**(昭和十三年度設立資本金二千万圓)が當り、南山、大凹山、黄梅山、鐘山、鳳凰山等に努力を傾倒してをり、豫想以上の實績を擧げてゐる。

石炭も揚子江を中心として廣く産出される。主な産地は、湖北省(埋藏量四百四十万瓩)、湖南省(同四千万瓩)、安徽省(同三百五十万瓩)、江西省(同九百七十万瓩)、江蘇省(同二百万瓩)、浙江省(同百万瓩)で、量においては餘り多くはないが、長江を利用できることが強味である。

現在稼行中の主な炭礦は淮南である。淮南炭礦は安徽省懷遠縣、淮河中流、蚌埠の西方五十三キロに在り、炭質は弱粘結性、低度瀝青炭である。この開發には淮南炭礦股份有限公司(資本金千五百万圓昭和十六年六月設立)が當つてゐて、現在の勞働者數は六千五百人で、日本の優秀技術を移植して増産に拍車をかけてゐる。運河を溯つて蚌埠へ出で、そこから津浦線で浦口に通じ、また、最近開通した淮南鐵道で裕溪口に出ることも出來る。この炭礦が中支建設の上に及ぼす貢獻は特に大きい。

蚌埠の北方には烈山炭礦があり、製鐵用の優秀炭を埋藏してゐるが、これも日本製鐵の手によつて開發されることにならう。

製鐵に不可缺な螢石が杭州、湖州附近に産すること、滿俺の鑛脈の發見されたことなどは躍進途上にある東亞の製鐵界に少からぬ光明を與へてゐる。

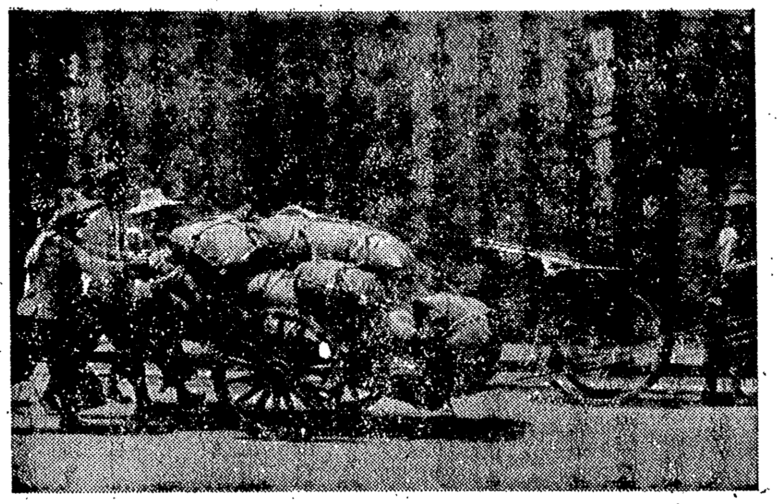
貿易

最近の國際情勢の推移は、今次事變において、その前衛的地位にある中支經濟の役割をますく增大しつゝある。中支があらゆる産業部門にわたつて、支那經濟の中樞的な地位にあることは周知の通りであるが、對外貿易の面においても、中支の重要性は漸次增大の一途を辿つてゐる。中支貿易は從來も殆んど上海一港の貿易によつて代表されてゐたが、事變以來、その傾向は一層顯著となり、その他の中支諸港の貿易額は殆んど皆無に近い狀態である。

事變の影響により昭和十三年度には沈滯の極にあつた上海貿易も、その後は着々として回復し、昨年度には既に事變前の水準を遙かに突破して、輸出入總計二十一億三千万元の巨額に達し、昭和十三年度に比べて、四倍を超える進展振りを示してゐる。全支貿易に對する比率も昨年度には五三%に達し、昭和十三年度の三〇%に比べて目覺ましい躍進を見せ、支那貿易における重要性が著るしく增大しつゝあることは注目すべき事實である。上海貿易の膨脹は、固より法幣價値の下落に起因する點を見逃すことは出來ないが、中支における經濟復興の進捗と治安の回復に基づくものであることは爭へないところであらう。

しかしながら、中支は北支とは狀勢を異にし、現在進展してゐる中支經濟の動向は極めて複雜である。中支、特に上海は援蔣諸國の權益が集中してゐる結果、これ等の勢力は新らしい東亞の黎明の前に衰亡の一路を辿りつゝありとは言へ、今なほ租界と法幣とを通じて依然として隱然たる存在を保ち、貿易金融においては、これら援蔣勢力との間に必死の經濟戰が展開されてゐる現狀と見るのが妥當であらう。上海貿易における各國の比率を見ると數年前までは米、日、英、獨の順は動かないところであつたが、事變の進展と國際情勢の急變はその情勢に著るしい變化を來した。

また、對アジア諸國との貿易が最近著るしく重要性を



(米の搬出――上海)

增して來たことは、注目に價する事實であつて、この傾向は本年度に入つてますく顯著となつてゐる。

中支における圓ブロック貿易は事變以來、着々とその地歩を固めてをり、その進展は相當に目覺ましいものがある。

しかしながら、物價の不均衡に起因する片貿易の激化は、圓ブロック計畫貿易の見地から調整の必要を痛感され、北支と同樣に着々とその統制を强化して、既に昨年度には顯著な改善のあとを示すに至つてゐる。

通貨

揚子江は中支、否、全支に脈搏つ大動脈であり、事變以來、蔣政權側はこれが確保に必死となつてゐたが、昭和十三年十月、海陸呼應する皇軍の武漢作戰に完敗し、僻地重慶に敗退轉落し、わが管制下に歸した揚子江は中支各地に活躍する皇軍の輸血路として、また新生支那の新鮮な血脈として聖戰完遂に極めて重大な役割を果

すことになつた。この脈管を通ふ血液として最初に生れたものが華興商業銀行の華興券であつた。即ち、華興券の發行は中支經濟の國際性と貿易性を顧慮し、中支一帶の通貨金融の不安を除き、中支民衆に安心して經濟活動を營ませることが戰後經營における經濟上の急務であることを認め、通貨の安定と外國貿易金融の圓滑とに資する目的のもとに、昭和十四年五月、貨幣發行權を附與して華興商業銀行を設立したことに由來するのである。

その後、中央儲備銀行が成立して、同行の發行權を取消されて以來、純然たる商業銀行として業務の擴充と新發展を期し着々と實績を擧げてゐる。

昨年三月、南京還都の國民政府は中支に流通する軍票、華興券及び舊法幣等の關係を睨み合はせ、理論的檢討を行ひ、中央銀行設立の準備を進めて來たが、諸般の準備を終つて、去る一月六日、中央儲備銀行を創立し、新法幣發行の特權を賦與して漸時幣制統一の完成を期することになつた。

新法幣は紙幣發行高に對する百分の四十以上の現金準備（銀貨及び地金銀と外國貨幣及び外國貨幣による預金）と百分の六十以下の保證準備からなる全額準備を有する健全通貨であり、中華民國の法幣として無制限に流通するものであるとともに、整理貨幣暫行辦法第六、第七條は、政府財政收支は一律に新法幣を使用することを規定

週報叢書 近代戰と金屬（特輯） 定價三十錢 送料二錢

近代戰に於て鐵の一片は正に血の一滴に値する。さればこそ、世界各國は血眼になつて鐵資源の爭奪戰を演じてゐるのである。而して我が國の現狀は如何……

―本書の内容―

世界の製鋼能力、鐵資源の爭奪戰、世界列強の屑鐵對策、屑鐵の眞價、わが國の鐵鋼製產力擴充計劃、金屬回收はなぜ必要か、工場・事業場の清掃運動、金屬回收に協力せよ―

情報局編輯
內閣印刷局發行

してゐるが、現在、事變繼續中の特殊事態を考慮して、徐海道、武漢、安慶、南支及び海南島を特定區域に指定し右特定區域內においては當分の間右規定は適用されないことになつてゐる。

また、北支の中國聯合準備銀行は華北金融の重心でありつとめてその健全な發展を圖るため聯銀券の流通區域も暫時現狀維持の建前をとり、更に蒙疆地區の有する高度自治制から何等の影響も受けないのである。なほ金融市場の動搖防止、人民厚生の保障を圖るため、現在流通の各種舊法幣は、當分の間、新法幣と等價流通を認めてゐる。

新法幣は直ちに支那大衆と結びつき、國民政府の民心收攬、民生安定に顯著な効果を齎すことを期待され、その發行高も漸增の一途を辿り、去る五月十日現在には三千八百餘万元に達した。この額は濫發舊法幣には及ばないが、新法幣が安定通貨としての性格を具備し、急速に支那民衆の間に浸潤してゐたことを示すもので、飛躍的な發展が豫想される。殊に中支から南支にかけては我が方の軍票が既に舊法幣追隨から完全に脫却し、獨歩の堅調ぶりを示してゐる。今や軍票と新法幣とは相互に協調連絡し、しかも別個に獨自の分野を開拓しつゝ中支經濟再建に偉大な役割を果してゐる。

中支の文化工作

國民政府は還都以來、文化事業にも熱意努力してゐるが、成立日淺く學校等の復興に急であつて、維新政府時代の事業を踏襲するほかに、新らしい文化機關の建設は今後に期待される。

しかし、昨年十月には國立中央大學が新設され、最高學術研究と教育機關の整備に力を入れてゐる。國立中央大學は、昨年度は學生の學力を調整するために豫科的な學科を設け、本年度から、文、法商、教育、理工、農、醫、藥の專門學科を設けることになつてゐる。また、昨年九月には日支文化の交流、親善のための事業をする目的で中日文化協會が設立され、本年に入つて日文、華文の機關紙も發行されるやうになつた。

醫療、防疫については、主要都市には中央直轄病院、小都市には地方廳の經營する診療所を設けたり、また各地に防疫委員會を組織し、日本側同仁會も協力してゐる。

學術研究機關としては、現在、上海自然科學研究所、上海日本近代科學圖書館、中支建設資料整備委員會、南京紫金山天文臺があり、日本側學校としては上海東亞同文書院を初めとして各地に日語學校がある。このうち、中支建設資料委員會が行つた中支における文化財の蒐集整理は特記すべき功績であらう。これは今度國民政府に移管され、標本部は一般公開の博物館となることになつてゐる。

(カットの寫眞はコロンス島所見)

廣東

「廣東は南支の廣東ではなく、支那の廣東である、新らしい支那の重鎭である」とは、廣東を知り廣東を見る者のひとしく叫ぶところであるが、それは正しい。といふのは現代支那、即ち中華民國建國の策源地として、更に今日の世界情勢からして、支那の重心が次第に南に移つてゐることから特にその感を深くするからである。

昨年五月に南京還都後の最初の改組地方政府として廣東省政府が誕生し、ついで廣州市公署は市政府の名稱のもとに面目を一新して發足し、共に新生廣東建設に力強い歩みを續けてゐる。即ち、當面の仕事として、省正規軍としての省保安隊、新支那最初の海軍としての廣東海軍江防軍、陸軍としての中央軍官學校廣州分校、新政府直系國防軍、中央警官學校廣州分校、廣州市警察隊等で一万餘の軍隊、警察隊の育成に努め、廣東の自治的治安確保に邁進してゐる。

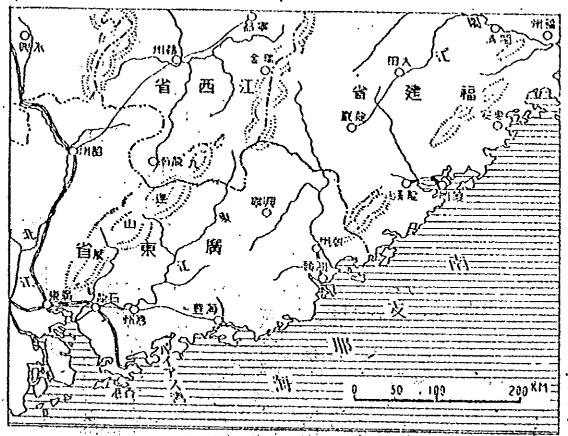
經濟的には昨年十月、廣東舊省市直營工場還附に關する日華協定に基づいて、皇軍の入城以來、日本側が管理してゐた電力、水道、麥酒、セメント、製糖、紡績、製紙、肥料、硫酸曹達の九工場の所有權を一括して省政府、市政府に返還し、廣東經濟の命脈に中國人の生氣を通じた。現在復業してゐる工場は製紙、織布、製糖、ガラス製造、製氷、飲料水製造及び煙草製造工場等で、織布、製紙、製氷、ガラス製造、飲料水製造、煙草製造工場などは事變前以上の生産高をあげてゐる。また、手工業の復興も目ざましく、竹細工、牙刷業、蓆業、綿の打直業等は特に盛んで石鹼製造、電氣器具の製造等も次第に復活してゐる。商業も亦活潑となり、大商店の開業は陸續として起り、現在營業種別にして百十餘、商店數にして一万戸以上に達し、一德路、太平南路、長堤路、惠愛路、惠福路、西關十三行等を中心に殆んど舊時の繁榮に立ちかへつてゐる。

交通方面では昨年四月、載貨制限緩和を主眼として珠江を開放して以來、水上交通も漸く繁くなり、また廣東内河運營も活潑な活動を續けてゐる。次ぎに通貨であるが、廣東(汕頭・海南島も同樣)では專ら軍票を主要通貨としてゐて、現在の軍票價値は大體中支と同樣である。なほ、昨年十一月、廣東省銀行が創立され、地元金融の復興と發展に貢獻してゐる。

文化も亦長足の進步を遂げてゐる。教育方面では市内の小學校は大半復興し、これに伴つて内容の改革も行はれてゐる。廣東大學も廣東四大叢林の一である光孝寺に復校されて、大學教育再興の先鞭をつけ、また、廣州日語學校等の日本語教育機關も活潑な活動をつゞけてゐる。宗教方面では國際佛教協會華南支部が傑僧鐵禪の住寺六榕寺内に設けられ民衆濟度に乘出してゐる。

厦門

新生厦門が誕生してから四年、諸般の建設工作は着々とその緒につき、現在、産業や商工業の發展振りは舊時をはるかに凌駕する勢ひを示してゐる。先づ工業であるが、現在、厦門市街だけで米粉製造業二十三、印刷業二十三、酒釀造業二十二、香料製造業十、醬油製造業七、金銀箔製造業九等があり、その他にも電池製造業、皮革製造業、鐵鋼器具製造業等があり、更に今次歐洲戰爭の影響で化粧品製造業が急激に增加してゐる。商業も工業界の



活氣を反映して相當盛んになつて來てゐる。

しかし、新生厦門建設の面目は如上の商工業の發展よりも寧ろ産業開發にある。元來、厦門は經濟的に獨立できず、常に華僑の送金によつて辛うじでバランスをとつてゐたが、新生厦門は華僑依存を捨てて、自給自足の政策を執り、第一着手として水産業の振興と禾山農業增産三ヶ年計畫を立て、着々とその實施に努力してゐる。水産公司は日華合辦の組織で、既に相當の成績を擧げ、禾山農業增産三ヶ年計畫は、禾山を開墾して一大農業區を作り、理想的な農業經營施設をほどこし、主として蔬菜、甘藷、稻作、麥類、落花生、甘蔗、黃麻等の栽培、豚、鷄等の家畜家禽の飼養等を行はうとするものである。

交通方面は厦門、鼓浪嶼兩島によつて形成する良港は水上交通を盛んにしてゐる。また、通信方面も昨年十一月十一日『中華民國厦門電氣通信株式會社條例』によつて設立された厦門電氣通信株式會社の營業もその緒につき、放送事業も厦門放送局が盛んに活躍を續けてゐる。なほ、厦門では臺灣銀行券を主要通貨としてゐるが、その價値は軍票と同一である。また一昨年四月に創立された厦門勸業銀行は地元金融機關としての機能を十分に發揮してゐる。文化方面における建設工作も着々と進展し、特に教育においてはわが内面指導と彼の自覺と相待つて、内容の刷新と充實が行はれ、宗教的なものとしては厦門孔教會等が眞面目な建設的努力を續けてゐる。

汕頭

汕頭とは、舊市場と新開地と對岸の礐石の三地を總括した名稱で、こゝに市制が施行されたのは民國十年である。舊市場は元の汕頭埠で、今日、商業の中心地となつてをり、對岸の礐石は主として外人の住居と學校教會の所在地になつてゐるが、次第にさびれて昔の華やかさはなくなつてゐる。汕頭は厦門とちがひ、いはゆる潮梅十五縣の奥地をひかへ、その地域に水陸の交通が開けてゐるので、廣東省東部地區の一中心地たるを失はぬ復興振りを見せてゐる。政治上では汕頭市善後委員會を改組した汕頭市政府の出現は、軍政務部の指導と相俟つて政治的基礎を確立したために民心は落着き、それが經濟・文化方面にも現れてゐる。

（廣東衞生局にて）

文化方面では市政府教育課で新興教育の振作に着手し、まづ教育振興三ヶ年計畫を樹て、學校教育、社會教育に新面目を發揮しようとしてゐる。元來この地方は唐の韓退之が潮州に來て學校を興し、學問を奬勵した遺風があるため教育には

多大の關心を拂ふ所で、市政府でもこの方面に最も力を入れてゐる。

經濟方面の復興も亦相當に進捗してをり、商店は相繼いで復業・開業し、日本商店の進出等も加はつて新汕頭の商業は刮目して見るべきものがある。工業は商業の復興に比べてやゝ出足が遲かつたが、昨年後半期あたりから次第に勃興し、手工業が盛んになり、特にドロンワークは事變前に優る盛況を呈し、毎月の輸出高は六十万元以上にも達してゐる。そのほか陶器・織布・土酒製造・製氷・製油等も復興し、マッチ、罐詰、飲料水製造等もまた復興の緒についてゐる。華僑の送金も昨年頃から復活し、現在では毎月四百万元乃至五百万元に上つてゐる。この傾向は確かに汕頭の復興を南洋華僑が認識して來たことを物語つてゐるものといへよう。

海南島

海南島に新秩序建設の雄叫を擧げてから滿二ヶ年半、政治、經濟、文化各般の建設工作は次第にその緒についてゐる。瓊崖臨時政府は、瓊崖(海南島の別名)、西沙群島、潿洲島(蛇洋洲を含む)、南朋島(大鏟山、二鏟山及び黄程等を含む)、上川島、下川島(茶洲及び話珠等を含む)等を管轄區域とし、瓊崖臨時政府政務委員會を組織した。

(珠江の交通船)

海南島はもと廣東省の所管に屬し、廣東省の政變が直

(アモイ街頭所見)

ちに影響して常に政治的な變動があり、民心が常に動搖してゐたので、今回統治機關を更に强化・擴充して政務、產業、文化各部面の躍進に努力してゐる。

次ぎに產業方面であるが、全島には至るところに豐富な礦脈がある。すなはち、東亞で最も優秀な赤鐵鑛は田獨山、石碌山に產出される。田獨鑛山は既に石原產業の手によつて稼行してをり、石碌鑛山の開發準備も着々と進んでゐる。また、南朋島や片角山からは良質のタングステン鑛を產し、那大附近からは錫を產出し、これは既に稼行してゐる。昌化江下流と北黎東方奥地の數ケ所の砂金層、大嶺の金銀鑛等は共に有望視されてゐる。更に良質の水銀鑛のあることも確認され、開發の準備が進められてゐる。全島が平野といつてよい海南島はまた農業方面にも重要性をもつてゐる。米、ゴム、甘蔗、ヒマ、漆、コーヒー、落花生、黄麻、胡麻、西瓜等を產し、特に米は水稻、陸稻ともに產し水稻は氣候風土の關係で年に三回の收穫がある。從つて耕作方法の改善に努力すれば、將來は有望な米產地になることは疑ひない。林業

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

もまた島の南半分の山地から有用な木材を多量に産出する。戰時下のわが國に必要なロクワイ、ニガキモドキ、タウアヅキ等の藥用植物もあり、キツタやアルトカルスのやうな油用植物もある。水産には鹽の生産量は相當なものがあり、近海からの漁獲高も頗る多く、特に鯛が多量に獲れる。交通方面では、まだ鐵道はないが、産業開發のために計畫は進められてゐるし、道路は島を一巡してゐて、要路間にはバスや海南島特有の幌馬車が通つてゐる。通信機關も事變前は海口に粗末な電話があつたに過ぎなかつたが、現在では國際電氣通信株式會社で新たに機器を設備し、一昨年八月に營業を始めてから相當の活躍を續けてゐる。

文化方面ではまだ一般化するまでにはなつてゐず、米人や佛人の經營する教會、病院、學校等には一流の設備もあるが、これは一般島民とは何の關係もない。最も普及してゐるのは教育で、舊國民政府時代にも相當力を入れてゐたやうである。現在では建設的な教育が盛んになり、內容も一新されてゐる。教育で最も問題になるのは言語で、廣東語、福建語、海南島語と各種各樣の言葉があるが、島の通用語には海口語がある。こゝで最も重視されねばならぬのは醫療施設であるが、現在臺灣の博愛會が獻身的な努力を續け、島民の厚い信賴を受けてゐる。

TOKYO GAZETTE

週英文報の「東京ガゼット」七月號

CONTENTS

Political Movements and the Student
(Bureau of Educational Research, Department of Educatiou)
National Stage and Screen
(Board of Information)
Japan's Population Exceeds A Hundred Million
(Board of Information)
Situation in China From Japanese Points of View

July, 1941

定價 上製一部七十五錢、一ケ年豫約九圓（送料共）
普及版半年豫約一圓八十錢（送料共）
一ケ年豫約三圓三十錢（送料共）（豫約ニ限ル）

申込所 東京市麴町區丸ノ內情報局內東京ガゼット發行所
振替口座東京一六五、二八三番

大陸に於ける日本人の進出狀況

事變以後の日本人の急激な支那への進出は每年驚くべき增加數を示してゐる。

本年四月一日現在の中華民國在留邦人の總數は、一月一日現在には四十八万餘であつたものが、**五十万を突破するに**至つてゐる（五十万六千二百三十人）。

試みに、これを事變直前の昭和十二年七月一日の在留邦人口數八万六千餘に比較してみると、約六倍となつてゐるわけである。この八万六千といふ數は、多少の增減はあるにしても、大正、昭和時代を通じての在留本邦人人口數であるから、かゝる本邦人の增加は昭和十三年度からの劃期的な現象である。これが皇軍の各地治安肅正と新政府誕生による國內平靜とによつて本邦人の經濟的、文化的進出の地盤が次第に鞏固となつたためであることはいふまでもない。大正初期以後、事變直前までの排日、抗日運動は、或るときは不敬事件となり、或るときは暴行、襲擊となり、或るときは日貨排斥となり、また或るときは英米各國に許可してゐる布教權の日本に對してのみ拒否となり、本邦人の正當な進出を阻止してゐたのである。

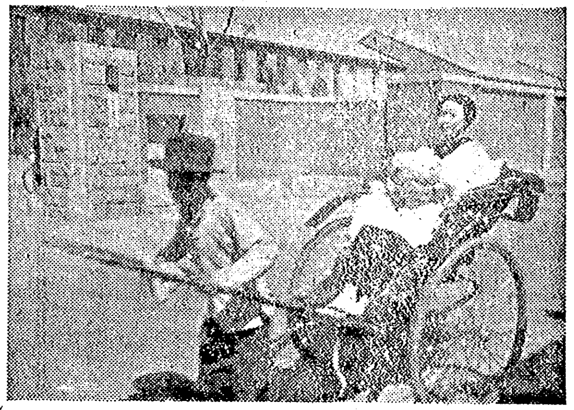
いま、昭和十二年から現在までの在留邦人人口數を、北支（蒙疆をふくむ）、中支、南支に分けると、次ぎのやうになる。

地域別に見ると、**北支の三十四万二千**が最高で、次に**中支の十三万三千**、南支の**三万となつてゐる**。また、これを滿洲國と比較すると、增加數では滿洲國在留者に次ぐが、增加率では昭和十四年からこれを凌ぐ狀態となつてゐる。

在留邦人數

（單位は千人、千人以下は省略。カッコ內は半島人、臺灣本島人を除いた內地人）

	北支	中支	南支	總計
昭和十六年四月一日	三四二	一三三	三〇	五〇六
	（二七〇）	（一一七）	（一四）	（四〇二）



（洋車に乘る日本婦人）

昭和十五年同期	二六九（三〇七）	九九（八四）	三五（一一）	三九三（四〇三）
昭和十四年同期	一四七（一一六）	五四（四九）	二三（四）	二二四（一七一）
昭和十三年十月一日	九九（七九）	三四（三三）	五（三）	一三九（一一三）
昭和十二年七月一日	四三（三四）	二九（二六）	一四（二）	八六（六二）

また、これを主要都市別に見ると、次ぎのやうになる。

主要都市別人口（單位は千人、千人以下は省略。カツコ内は半島人、臺灣本島人を除いた内地人）

張家口	一九（一八）	大同	六（五）
厚和	四（三）	包頭	三（一）
北京	八三（六三）	天津	五二（四二）
塘沽	三（三）	石門	一三（一〇）
太原	一五（一三）	芝罘	二（一）
青島	三〇（二八）	濟南	一九（一七）
徐州	八（五）	開封	六（四）
南京	一二（一〇）	蚌埠	三（一）
上海	八三（七五）	蘇州	二（一）
杭州	三（三）	漢口	九（八）
廈門	九（一）	汕頭	三〇（八）
廣東	三〇（八）	海口	二（一）

大正末年には北京邦人人口數が一千五百に滿たず、天津が五千人、上海が大正初年に一万であつたことを想起すると、實に感慨に堪へぬものがある。

以上の在留邦人の進出が日本の政治的・經濟的・文化的進出に伴つたものであることはいふまでもないが、これを職業別に見ると、次ぎのやうになる。これによると、商業關係者が最も多く、次ぎに交通・運輸・通信關係者、旅館料理關係者、工業關係者となつてゐる。

職業別に見た在留邦人（昭和十四年十月末）

	總數
内地人	二一六、六四一
農漁關係	三、三五〇
鑛業關係	六五四
商業關係	四九、三五八
工業關係	一一、四三六
軍官吏關係	六、六〇〇
教育宗教醫師關係	三、七二九
交通運輸通信關係	二一、五四二
旅館料理關係	一八、二三七
從屬者（家族）	九〇、五七六
その他（學生家事被傭人等）	一四、一六〇

それでは、これらの在留邦人の教育、衛生、その他の狀態はどうかといへば、關係機關、居留民會（團）、國策會社その他の協力によつて次第に改善されてはゐるが、しかし、なにぶん急激な増加のために止むを得ず非衛生的な支那家屋を改良して使用したり、また氣候風土、傳染病の豫防に對する不注意のために各種の疾病に冒される率も高い。これらの對策として、日本人都市計畫、衛生施設の完備、衣食の環境に適した改善などを行はねばならない。

在留邦人子弟の教育は一日も忽せにできないものであるから、各地に日本人小學校が新設されてをり、大都市には中等學校が設けられてゐる。

また、在留邦人の青年教育、社會教育も、國内新體制に應じて最近は活潑な動きを示してゐる。

終りに、現地にある日本人の心構へについて附言したい。現在、内地からの無制限の渡航は許されてゐない。大陸への渡航希望者は警察署等でそれぞれの手續を踏まなければならない。**要は一定の職業をもち、確乎たる精神の持主であることを要するのである。從來の利己的な金儲け根性や出稼根性は、この事變を契機として淸算されなければならない。**日支親善の戰士として、東亞新秩序建設の第一線戰士として恥かしくない崇高な人生觀と日本精神を持つた人々の活躍こそ、眞に事變の意義を價値づけるものである。

國民貯蓄奬勵局
情報局 共同主催

國民貯蓄奬勵ポスター圖案

當選發表

一等 岸信男 東京市牛込區東五軒町二
二等 木島武雄 神戸市神戸區山本通四ノ一二ノ三
〃 土屋華紅 東京市芝區南佐久間町一ノ五五
三等 池田鶴夫 大阪市東淀川區國次町六四五
〃 樋口清一 東京市牛込區東五軒町二岸方
〃 末廣重雄 同市牛込區東五軒町二岸方

（寫眞週報七月二日號に圖案發表）

支那事變綜合戰果（陸軍）

航空關係ヲ除ク

昭和一六、七　大本營陸軍報道部

本年一月以降六月上旬迄ノ綜合戰果

交戰セル敵兵力	約二百十七万九千
敵ノ遺棄死體	十九万千二百八十
同捕虜	八万四千七百
鹵獲品	
各種火砲	四百三十三
重機關銃、輕機關銃	千八百十二
小銃	四万千
洋砲	三千九百八十
自動車	十六
貨車、客車	八十五
船艇	七十八
我ガ戰死	五千六十五
彼我兵力損害ノ比率	三十七對一

事變發生以來ノ綜合戰果（自昭和一二、七　至一六、六）

敵ノ遺棄死體	約二百一万五千

敵軍ニ與ヘタル損害ハ死傷逃亡捕虜投降等總計約三百八十万ト判斷セラル

鹵獲品	
各種火砲	四千二百九
重機關銃、輕機關銃	一万九千八百三十七
小銃	四十五万千五百五十八
洋砲	一万八千二百
戰車、裝甲車自動車	千四百七十五
機關車、客車貨車	二千四百四十九
船艇	四百十
我ガ戰死（張鼓峯、ノモンハン事件ヲ含ム）	十万九千百九十六

備考

1. 鹵獲品ハ判明セル主要ナルモノノミヲ示シ此ノ外各種兵器、彈藥器材、被服並ニ押收援蔣物資等莫大ナリ
2. 最近我ガ軍ニ歸順投降ノ敵兵ハ逐次增加ノ狀況ニアリ

本年（自一月至六月）間ノ主要作戰

西方作戰（北支山西省西北部）―（十二月中旬一月下旬）

交戰兵力　約一万六千
遺棄死體　一千七百　捕虜　五百八十六
鹵獲品　火砲一、輕機十三、小銃四百五十一、波舟十九、捕獲馬百三十六

天津附近冬季掃蕩戰（北支河北省中部）―（十二月下旬一月下旬）

交戰兵力　約一万二千
遺棄死體　五百七十五　捕虜　三百七十七
鹵獲品　小銃　三百四十二　拳銃　百二

陵水作戰（中支湖南省東北部）―（一月上旬）

交戰兵力　約二万
遺棄死體　三千三百　捕虜　三百
鹵獲品　重輕機　十五　小銃　三百

豫南作戰（中支河南省）―（一月下旬二月上旬）

交戰兵力　約十万
遺棄死體　一万六千　捕虜　一千一百
鹵獲品　火砲十七、重輕機八十一、小銃三千百六十二、レール六千

番韶ルート遮斷作戰（南支廣東省東部）―（二月上旬）

押收援蔣物資

ガソリン	一万七百罐	石油	一千五百罐
鯨油	三千罐	桐油	一千五百瓲
種油	一千罐	モビル油	九百罐
鐵鉛類	四千瓲	タングステン	十瓲
アンチモニー	三千四百貫	錫	八百梱
鹽	七百五十瓲	綿布類	四千瓲
自動車	三		

蘇北作戰（中支江蘇省南部）―（二月中旬三月上旬）

交戰兵力　約五万
遺棄死體　三千（內溺死八百）　捕虜　九百九十
鹵獲品　火砲十五、重輕機三十四、小銃一千八百七十、汽艇三、棉花三千八[illegible]、[illegible]艇三百五十四艇

雷州ルート遮斷作戰（南支廣東省南部）―（三月上旬）

押收援蔣物資

石油	一万一千八百六十五罐		
種油	三千二百二十罐	桐油	九百五罐
アンチモニー	百二十瓲	滿俺	九千俵
鐵鑛	十五瓲	セメント	一千一百袋

晉南作戰（北支山西省南部）―（三月上旬三月中旬）

交戰兵力　約五万
遺棄死體　四千二百　捕虜　二百七十

鹵獲品　火砲十、重輕機五十三、小銃八百十三

淮南作戰（中支安徽省東部）―（三月上旬 同 下旬）
交戰兵力　約三万
遺棄死體　三千五十　捕虜　五十
鹵獲品　火砲一、重輕機十七、小銃四百八十七

錦江作戰（中支江西省中部）―（三月中旬 四月上旬）
交戰兵力　約七万
遺棄死體　八千九百、捕虜七百五十四
鹵獲品　火砲十二、重輕機四十、小銃一千五百十三

太湖西方作戰（中支、江蘇、安徽、浙江省中間）―（三月下旬）
交戰兵力　約五万
遺棄死體　二千五百、捕虜百
鹵獲品　火砲一、重輕機十三、小銃三百

照東作戰（南支廣東省東部）―（三月下旬）
押收接將物資
鐵材二百噸、銅九百砲、錨チェーン等八千六百噸、鉛三十七噸、タングステン一千五百三十三噸、綿布類一万三千梱、油類六千罐、食料五千噸

浙東作戰（中支浙江省東部）―（四月中旬 五月中旬）
交戰兵力　約十万
遺棄死體　九千五百　捕虜千三百六十
鹵獲品　火砲三十一、重輕機百五十六、小銃四千二百五十、トラック七、客車、貨車八十五、レール七千本、他鐵、金屬類、油類、食料等押收物資多數

福建作戰（南支福建省東部）―（四月中旬 同 下旬）
交戰兵力　約二万
遺棄死體　一千三百、捕虜五百六十七
鹵獲品　火砲四十五、重輕機四十五、小銃九百、油類四千四百罐他木材、食料等多數

江北作戰（中支湖北省東部）―（五月上旬 同 下旬）
交戰兵力　約六万
遺棄死體　六千七百五十、捕虜三百五
鹵獲品　火砲七、重輕機七十五、小銃一千四百十、地雷百八十二、舟百十五

東江作戰（南支廣東省東部）―（五月中旬）
交戰兵力　約二万
遺棄死體　二千、捕虜七百九十
鹵獲品　火砲二、重輕機九、小砲四百五

中原作戰（北支山西省南部）―（五月上旬 六月中旬）
交戰兵力　約二十万
遺棄死體　約五万、捕虜三万一千
鹵獲品　火砲百七十七、重輕機六百五十七、小銃約一万、擲彈筒二百三十、地雷五〇

冀東作戰（北支河北省東北部）―（五月下旬 六月上旬）
遺棄死體　一千三百、捕虜六十四
鹵獲品　輕機五、小銃七百四十三

「讀者調査について」
―皆樣への御願ひ―

今度情報局では、週報の讀者調査を行ふことになりました、くはしい内容は次號で御しらせ致しますが、大體の計畫をこゝにお傳へし、皆樣の御協力を御願ひする次第です

☆調査範圍――今度の第一回調査では、左記の十六府縣に限つて行ひます
關東地方…東京府、群馬縣
奧羽地方…宮城縣、秋田縣
中部地方…長野縣、富山縣、福井縣、山梨縣
近畿地方…兵庫縣、三重縣
中國地方…岡山縣、島根縣
四國地方…德島縣、高知縣
九州地方…福岡縣、鹿兒島縣
右の府縣内で購入されてゐる全部の讀者

☆期日と方法――七月十六日號（次週）の週報に、官製ハガキに刷つた「讀者調査票」を入れますから、御手もとにとどいたら直ちに記入して御出し下さい

この調査は、週報の編輯上に參考とするのは勿論、今後情報局でいろ〳〵の仕事をしてゆく上の大切な資料とする豫定ですから、讀者の方々が一人殘らず御協力下さることを切に希望致します

官廳編纂圖書紹介

◇日本諸學振興委員會研究報告（敎學局編纂）
先に刊行されたものに引續き左の書が發刊された。
第十一編　第二回　歷史學（A5判三一四頁　定價五〇錢　送料九錢）

◇列國資源撮要（第五號）（企畫院編纂）　先に刊行されたものの改訂增補したものである。（A5判一〇六頁　定價五五錢　送料六錢）

◇外國爲替管理法及關係命令（大藏省爲替局編纂）昭和十六年四月改訂（A5判一九三頁　定價四〇錢　送料九錢）

◇恩給法關係法令集（内閣恩給局編纂）　昭和十六年六月改訂版。（A5判一九七頁　定價三五錢　送料六錢）

◇條約彙纂（第二卷第九部）（外務省條約局編纂）（A5判一〇七六三頁　定價八圓　送料内地一四錢）
（以上發行　東京市麹町區大手町　内閣印刷局　振替東京一九〇〇〇番）

◇增補東北の民俗（仙臺鐵道局編纂）　東北の民俗を四季に分けて解說したもの。（四六判一二六頁　定價七〇錢　送料六錢　發行東京市神田區鍛冶町二ノ二四日本旅行協會　附帶事業課　東京二九四〇三番）

◇國民精神文化文獻（國民精神文化研究所編纂）　先に刊行されたものに續き左の書が發刊された。山鹿素行集（第六卷）（菊判六〇〇頁　定價六圓　送料二三錢　發行東京市品川區上大崎長者丸二八四國民精神文化研究所）

週報

昭和十六年七月九日發行
編輯者　情報局　東京市麹町區丸ノ内三丁目十二番地
印刷者 發行者　内閣印刷局　東京市麹町區大手町

定價
一部　五錢（外國郵便に依る地域は送料共一部十錢）
▲豫約配送御希望の方は一部五錢（外國郵便に依る地域は十錢）の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます

申込所
内閣印刷局發行課　電話丸ノ内(23)三五一―九　振替東京一九、〇〇〇番
全國各地官報販賣所
各書店・驛賣店

御注意
▲本誌より轉載の場合は必ず「週報第何號より轉載」の旨を明記し、その轉載誌を情報局週報編輯部宛三部御送り下さい
▲本誌記事の無斷轉載は御斷り致します
▲掲載記事に對する御希望や編輯に關しての御意見も週報編輯部宛お知らせ下さい
▲本號を他へお送りの場合は郵稅一部五厘
▲本誌へ廣告御希望の向は内閣印刷局へ

放送番組の夏期體制と夜間番組の編成

一、放送番組の夏期體制

今春放送時間の劃期的な改正をした全國の放送局では今回、盛夏七、八月中、三十分の早起放送を行ひ、夏らしい早起翼贊の番組を送ることになつた。毎日午前五時半から先づ早い朝のニュースを十分間送り出し、續く二三分間全國各局から各府縣代表の「**われらは翼贊す**」の話を毎日放送し、その後は從來の「ラジオ體操」に連續する。

このほか、午後二時半から十分間の「氣象概況」の時間に、天氣豫報と又場所によつては夏の異物雷雨の豫報を放送することとなり、また、午後の「**職場向放送**」を十分ばかり延長し、午後三時半のニュースの前にあつた「**商工業の時間**」はニュース後の午後三時五十分から放送し、また、從來の朝八時四十分からの「職業指導所からのおしらせ」は午前八時十分に繰上げられ「**職業指導の時間**」と變更してその內容も擴げられることになつた。

二、夜間番組の新編成

放送で一番聽かれる夜の番組、特に七時のニュース後の番組は從來、別に曜日や日によつて種目が特定されてゐなかつたが、今回放送番組の充實を企圖して初の試みとして一應**曜日**別に**種目を特定**し、特に大體八時すぎから九時迄の種目は一應左のやうに定め、これに、その日の慰安番組の重點を置くことになつた。

	全國放送	都市放送
月	古典音樂	洋樂
火	大衆演藝	大阪番組
水	ドラマ小說類	洋樂
木	大阪綜合番組	ドラマ
金	洋樂	大衆演藝
土	混合番組	中繼放送等
日	東亞放送等	座談會等

露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

放送番組の夏期體制と夜間番組の編成

一、放送番組の夏期體制

今春放送時間の劃期的な改正をした全國の放送局では今回、盛夏七、八月中、三十分の早起放送を行ひ、夏らしい早起翼賛の番組を送ることになつた。毎日午前五時半から先づ早い朝のニュースを十分間送り出し、續く二十分間全國各局から各府縣代表の「われらは翼賛す」の話を毎日放送し、その後は從來の「ラジオ體操」に連續する。

このほか、午後二時半から十分間の「氣象概況」の時間に、天氣豫報と又場所によつては夏の景物雷雨の豫報を放送することとなり、また、午後の「職場向放送」を十分ばかり延長し、午後三時半のニュースの前にあつた「商工業の時間」はニュース後の午後三時五十分から放送し、また、從來の朝八時四十分からの「職業指導所からのおしらせ」は午前八時十分に繰上げられ「職業指導の時間」と變更してその内容も擴げられることになつた。

二、夜間番組の新編成

放送で一番聽かれる夜の番組、特に七時のニュース後の番組は從來、別に曜日や日によつて種目が特定されてゐなかつたが、今回放送番組の充實を企圖して初の試みとして一應曜日別に種目を特定し、特に大體八時すぎから九時迄の種目は一應左のやうに定め、これに、その日の慰安番組の重點を置くことになつた。

	全國放送	都市放送
月	古典音樂	洋樂
火	大衆演藝	大阪番組
水	ドラマ小説類	洋樂
木	大阪綜合番組	ドラマ
金	洋樂	大衆演藝
土	混合番組	中繼放送等
日	東亞放送等	座談會等

露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

伸びる一億導く週報

週報

昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十六年七月九日發行（毎週一回水曜日發行）

內閣印刷局印刷發行

（本書の大きさは國定規格［A5］判）